

至誠

80th 創立 80 周年記念誌

学校法人 加藤学園

加藤学園高等学校



校訓「至誠」について

本校の建学の精神である校訓「至誠」は人間のもっとも大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。

教育は知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、本校では徳育の最高目標として「まごころを尽くす―至誠」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指している。

校
歌

重友純 作詞
菊池俊輔 作曲

一、千本浜に 光射し

松風^{しょうふう}颯々^{さつさつ} 生氣^{せいき}満つ

ああ 目覚^めめの この朝^{あした}

夢^{ゆめ}は 雲間^{うんかん}を縫^ぬい 碧空^{へきくう}を翔^とける

今こそ 青春^{せいしゆん}の中

我等 至誠^{しじやう}の旗^き幟^{しゆ}かかけ

学^{まな}びて可能^と性の 扉^とを叩^{たた}かん

二、広き世界に 虹^{にじ}かける

進取^{しんしゆ}の息^{いき}吹き 日^ひに新^{あたら}た

この 輝^{かがや}ける 学舎^{がくしゃ}に

我等 肩^{かた}組^{くみ}みかわし 希望^{きやうぼう}を謳^{うた}う

今こそ 研鑽^{けんざん}の時

清^{すが}しき富士^{ふじ}を 仰^{あや}ぎつつ

学^{まな}びて大^{おほ}いなる 明日^{あす}創^{つく}らん

凜^{れん}たり 加藤^{かとう}学園^{がくえん}高校





加藤学園高等学校創立者

加藤ふち先生

明治19年（1886年）4月1日、加藤ふち先生は沼津に生まれました。向学心に燃えるふち先生は、目白の日本女子大学に学んだ後、明治42年アメリカへ渡りました。当時、高等教育を受ける女性すら珍しかった時代に渡米留学した先生は、まさに時代の先駆者といえましょう。

以来15年にわたりワシントン大学、シカゴ大学などで学び、大正14年帰国されると、沼津の地に新しい女子教育の場を創ろうと決意されたのです。翌大正15年、沼津淑徳女学院を真砂町に開校しました。この沼津淑徳女学院こそ、現在の加藤学園高等学校のはじまりだったのです。以来およそ半世紀にわたる、昭和47年まで、先生はその一身を女子教育に捧げられたのです。

目次

校訓「至誠」について	1
校歌	2
創立者 加藤ふち先生	3
校舎前景	4
躍動する群像	6
不撓不屈の精神で	
学校法人加藤学園 理事長 加藤正秀	8
瑞 兆	
加藤学園高等学校 学校長 加藤瑠美子	9
創立八十周年によせて	
加藤学園高等学校 PTA 連合協議会会長 小林 力	10
至誠に学ぶ	
加藤学園高等学校 学校後援会会長 望月幸夫	11
創立八十周年に寄せて	
加藤学園高等学校 真砂会会長 小池ふみ子	12
逍遙歌	13
発展する加藤学園	14
校章の歴史、校訓・校歌の変遷	16
加藤学園のあゆみⅠ（大正15年～平成7年）	18
加藤学園のあゆみⅡ（平成8年～平成18年前期）	32
進学部	56
総合学部	60
商学部	64
校友会活動	68
国際交流	72
富士フェニックス短期大学	74
暁秀高等学校・中学校	76
暁秀初等学校	78
加藤学園幼稚園	80
考古学研究所	82
真砂会	84
創立八十周年記念事業等委員氏名	86
編集後記	





平成18年度
第88回全国高等学校野球選手権静岡大会



平成18年度暁野祭 文化の部
チアリーダー部 SHINE☆STARS

不撓不屈の精神で

学校法人加藤学園 理事長 加藤 正秀

本学園は創立八十周年を迎え、十一月十五日には記念式典が挙行される。本学園が今日の発展を遂げることができたのも、ひとえに多くの方々のご理解とご協力があつたからである。ここに後援会・同窓会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げたい。

創立記念日は、創立者の偉業を称えとともに創立の精神の継承・発展を再確認するときである。

本学園が創立された一九二六年（大正十五年）は、一部で大正デモクラシーが開花していたとはいえ、関東大震災の余波から経済的、社会的混乱に全国があえぐという時期であつた。このとき私立学校を創設するには、私達の想像をはるかに越える困難があつたに違いない。しかし、加藤ふぢ先生には、日本の女性の社会的地位を向上させて男女平等を解消するには教育しかないという止むに止まれぬ使命感があり、あえて淑徳女学院の開校に踏み切つたのである。今私達に必要なのは、新しい時代に生きる私学としての使命感と、難局に直面してもあえてリスクをとる勇氣と決断ではなからうか。

この八十年本学園にとって大変な時期がいくつかあつた。最初の危機は第二次大戦で校舎が灰燼に帰したときである。当時、静岡県東部の私学にあって戦災に直接見舞われたのは本校だけであつた。このとき加藤ふぢ先生は、血のにじむような努力を重ねて復興を成し遂げたのであつた。

あれから六十年を数えた現在もまた、私達は少子化に伴う「私学氷河期」と言われている未曾有の危機に直面している。本学園が、この難局を無事に乗り越え、新しい歴史を刻んでいくのに必要なのは、やはり加藤ふぢ先生の不撓不屈の力強い精神ではなからうか。



瑞 兆

加藤学園高等学校 学校長 加藤 瑠美子



今年四月、創立者に所縁のある藤棚に、ここ何年もなかった玉藤が見事に花房をつけてくれました。まるで創立八十周年を祝ってくれている様です。その藤は、創立者が亡くなるその春、ある方からお見舞いと頂いたものです。土のあるものは根（寝）付くなどと言われ敬遠されるものですが、加藤ふぢ先生はとても喜んでいました。枕元に置いた鉢植のかわいらしい藤の花を、朝な夕な童女のようなお顔で愛でておりましたことを鮮明に思い出しました。

私は昨年体調を崩し、会議に出席できないこともあり、長い間うつうつとした日々を送りました。そんなつらい時に、本校の職員、後援会・保護者・同窓会の方々が私を支えて下さいました。また、朝晩挨拶してくれる生徒達からは元気をもらいました。“一人ではないんだ”という安堵感は、精神的な安定をもたらしました。そして再び、気力が充実して参りました。皆様方には、ただただ有難うという感謝の気持ちしかありません。創立者ふぢ先生が亡くなる前の年の書き初めは「感謝」でした。私と同じ感慨をもたれたこともあったのでしょうか。絶筆となった「創造」までは、私にとって遠い道のりですが、創立者の魂である本校をお預かりしている限り、校是をしっかりと守り、また時代に即応した教育の実践を職員と一致団結して進めていく覚悟です。まずは八十周年を無事にかつ盛大に挙行するよう努めます。

今年も多くの方々に支えていただきながら、皆様の期待に応えられますよう努力いたしますので、宜しくお願い致します。

創立八十周年によせて

加藤学園高等学校 PTA連合協議会会長 小林 力

創立八十周年誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

創立八十周年を迎えられました節目の年に、PTA会長を務めさせていただく事は大変に光栄であり、又その責任の重さを痛感している次第です。

八十年の歴史の中には、戦前・戦中・戦後と時代が大きく変化する中で、幾多の苦難の道があった事と存じます。そうした中で規制された教育と戦後の新しい教育とを無事に乗り越えられた学園創立者、加藤ふぢ先生そして多くの学園関係者に改めて敬意を表するものであります。

戦後六十年を経てなお社会の変化は激しく、政治・経済そして教育においても、その本義が問われております。そのような情勢下にあつて、教育こそ国の盛衰を左右するものであるとの信念から、学園を挙げて青少年教育に力を注いだ結果が今日の隆盛をもたらしたものと存じます。しかしながら、少子化、核家族化、格差社会等、学園を取り巻く環境には厳しい面があります。

PTA活動を通して思う事は、加藤学園高等学校では校訓「至誠…まごころを尽くす」のもと、知育・徳育・体育と調和のとれた教育が実践されているということです。私共がこうして安心して子供を通学させることができますのも、先生方がきめ細かなそして、生徒一人ひとりを大切にする加藤学園ならではの教育の賜物と深く感謝申し上げます。

私共は今後、PTA活動を通じて少子化に伴う私学水河期と言われているこの難局において、学園関係者と一致団結し、学園の更なる発展のために今迄以上に尽力する所存です。そして、この八十周年を機に、九十周年、百周年と学園の限らない飛躍をお祈り致しましてお祝いの言葉とさせていただきます。



至誠に学ぶ

加藤学園高等学校 学校後援会会長 望月幸夫



加藤学園高等学校八十周年記念事業に対しまして、法人本部を始め加藤学園暁秀高等学校、加藤学園暁秀中学校、加藤学園暁秀初等学校、加藤学園幼稚園、考古学研究所、早期英語教育研究室、各後援会、同窓会、PTA等の関係各位の多大なご協力により実現いたしましたことを、ここに深く感謝申し上げます。

伝統ある加藤学園高等学校の創立八十周年を迎えるこの年に、記念事業の役員を仰せつかったことは、光栄であると共にその責任の重さを痛感いたしております。それは、何より加藤学園高等学校には、創立以来の建学の精神が見事に受け継がれているからです。単に長い歴史があるだけではなく、しっかりとした伝統が加藤学園そのものを支えているように感じられます。卒業生は既に三万人を超えているようですが、少子化の時代を迎えている現在も静岡県東部地区の人々から絶大な信頼と期待が寄せられています。改めて創立者加藤ふぢ先生の偉大さが偲ばれますと共に、理事長加藤正秀先生、学校長加藤瑠美子先生を始め、加藤学園高等学校に奉職されました歴代の先生方のご努力は如何ばかりかと存じます。

また、この成功は、創立以来の優れた先見性が備わっていたことに起因しているでしょう。加藤学園は常に時代のニーズに即した教育を展開してきました。加藤ふぢ先生は、創立に際し女性の地位向上を目指していらっしゃいました。当時の日本は、まだまだ封建的で女性は社会から閉鎖された立場に置かれていました。今日の女性の社会進出の状況を鑑みれば、ふぢ先生のような先人の英知に深い感銘を受けずにはいられません。商業教育を礎に普通科、保育科を設立され、男女共学への移行、進学体制の確立へと刻一刻と変化していく時代に合わせるように加藤学園高等学校は歩んできました。そうした変革の中にあつて大切に守られてきたのが、校訓「至誠」です。この校訓は、人に優しく、常に周囲の人々に誠意をもって接することの重要性を訴えています。まさに社会生活を営む上で最も必要な心構えでしょう。高校生活では、良き友とめぐり会い、その友情を育む。それから学業や部活動を通じて自己研鑽には励むことが大きな目的です。加藤学園高等学校では、生徒の活動のあらゆる場面に「至誠」の精神が生かされていることが垣間見られます。

ここに八十周年が迎えられることを感謝し、この精神の灯火を絶やすことなく永久に受け継ぎ、これからも地域に愛され、生徒に夢と希望を与える学園として発展させていただきたいものです。また、今後多くの皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創立八十周年に寄せて

加藤学園高等学校 真砂会会長 小池 ふみ子

秋気さわやかに澄み渡り、菊薫るこの佳き日に、母校加藤学園高等学校の創立八十周年記念式典が挙行されますことは、卒業生として、まことに喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

大正十五年四月に創立者加藤ふぢ先生によって設立されて以来、満八十年、この間戦災や学制改革など、幾多の困難の中、建学の精神を堅持し、社会の変化や時代の要請に対応し、今や県内有数私学の中、トップクラスの学園に大いなる発展を遂げて参りました。

昭和四十七年五月十日、創立者加藤ふぢ先生がご逝去なされ、以来、加藤正秀校長先生、平成二年四月より加藤瑠美子校長先生に受け継がれました。昭和五十八年四月には四十名の男子生徒を迎え男女共学校となり、社会の中で生きる女性の教育から、男女共に役割を果たす人間作りの教育、そして、個々の可能性をきめ細かに引き出し、知識や技能を身につける教育がなされています。

近年卒業式に出席させていただいておりますが、卒業していく生徒さん達を見て、三年間の教育の成果を実感させていただき、校長先生始め、諸先生方の生徒に対するめんどうみの良さに敬服するばかりです。加藤学園の卒業生である事に誇りを持ち、学園のすばらしさを広く皆様にお伝えしたいと思っております。

現在、真砂会の会員は三万四千余名となりました。この卒業生と共に学園に関わった方々は、ご父兄、そして諸先生方と数えきれない数になる訳です。「真砂」の一粒一粒を結集し、大海原を抱くような大きな力となり、学園の発展にご協力できますことを願っております。

創立八十周年を祝し、母校の益々のご発展を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



逍遙歌

勝田香月 作詞
川村四郎 作曲

一、芙蓉ふようの峰の雪溶けて
陽炎かげろう燃ゆる千本の

浜なまの小径せみを逍遙せまよへば
長閑のどかに匂におふ磯いその香かや
大瀬おほせの岬さかに消えて行く
舟ふねの煙けむりの懐なつかかしや

二、香貫たそがれの山の蟬せみ時雨しぐれ

黄昏たそがれ近く狩野川かしのがわの
堤つとみを行いけばほのかにも
宵待草よひまちぐさの咲さきにけり
友ともよオールの手てを止とめて
語かたらむ若わかき日ひの愁うれひ

三、秋草あきくさの花咲き乱れ
裾野すそに満みつる虫むしの声こゑ

青空あおぞら高く気きは澄すみみて
紅葉もみぢ色いろ濃こき愛鷹あいたかや
箱根はこねの山やまの穂薄ほすずきに
流ながれて白しろし秋あきの風かぜ

四、蕩いらかの波なみに霜しもおきて

浜なまの松風まつかぜ音ね寒ふき
頃ころともなれば小雪こゆき散ちる
学まなびの庭にわに睦むつび来きて
友ともよ三歳みとせの明暮あけくれの
清きよき誓ちかひを忘わすれじな



発展する加藤学園

1967

昭和42年



加藤学園幼稚園
早期英語教育研究室

1949

昭和24年



考古学研究所

1926

大正15年



加藤学園高等学校

「無限大の可能性へ向けて新たなる挑戦」

1926年（大正15年）の開校以来、常に時代のニーズに応える教育に全力で取り組んで参りました。これからも皆様の期待に副える教育実践を目指すと共に、グローバル化の進む社会に貢献できる人材育成を使命とし、教職員一丸となってより一層努力する覚悟です。

1992

平成4年



FUJI PHOENIX COLLEGE

富士フェニックス
短期大学

1983

昭和58年



加藤学園
暁秀高等学校

1974

昭和49年



加藤学園
暁秀中学校

1972

昭和47年



加藤学園
暁秀初等学校

学校法人加藤学園 法人総局	〒410-0022	沼津市大岡自由ヶ丘1979	TEL.055-922-2515	FAX.055-924-4733
加藤学園高等学校	〒410-0022	沼津市大岡自由ヶ丘1979	TEL.055-921-0347	FAX.055-924-4733
考古学研究所	〒410-0022	沼津市大岡自由ヶ丘1979	TEL.055-921-0347	FAX.055-924-4733
加藤学園幼稚園	〒410-0022	沼津市大岡自由ヶ丘1979	TEL.055-921-4805	FAX.055-926-0044
早期英語教育研究室	〒410-0022	沼津市大岡自由ヶ丘1979	TEL.055-922-0720	FAX.055-925-4316
加藤学園暁秀初等学校	〒410-0022	沼津市大岡自由ヶ丘1979	TEL.055-922-0720	FAX.055-925-4316
加藤学園暁秀中学校	〒410-0011	沼津市岡宮字中見代1361-1	TEL.055-924-1900	FAX.055-924-3303
加藤学園暁秀高等学校	〒410-0011	沼津市岡宮字中見代1361-1	TEL.055-922-1900	FAX.055-924-3303
富士フェニックス短期大学	〒412-0001	御殿場市水土野81-1	TEL.0550-88-1360	FAX.0550-88-1370

校章の歴史



①沼津淑徳女学院時代
大正15年～昭和12年



②沼津淑徳商業女学校時代
昭和3年～昭和9年



③沼津女子商業学校時代
昭和10年～昭和22年



④沼津女子商業時代
英語追放の戦時中
昭和16年？～昭和20年



⑤第一次沼津女子高等学校時代
昭和23年～昭和28年



⑥沼津女子商業高等学校時代
昭和29年～昭和40年



⑦第二次沼津女子高等学校時代
昭和41年～昭和51年



⑧現在の校章
昭和52年～現在

校訓の変遷

勤 温 至 校
勉 雅 誠 訓

①開校時～昭和56年度

校訓
至 誠

②昭和57年度～現在

本校の建学の神である校訓「至誠」は人間のもっとも大切な心がまえであり、創立以来60年不変の教育理念として継承されています。

教育とは、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあります。本校では徳育の最高目標として、「まごころを尽す…至誠」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指しています。

校歌の変遷

①～昭和59年度

1. 御空にそびゆる けだかき富士が嶺^ね
朝夕仰ぎて 学べるわれらの
輝くのぞみの 高きをしるや
2. 長閑けき海辺の 緑の松原^{のど}
朝夕のぞみて いそしむわれらの
かはらぬ操の かたきを知るや

勝田香月 作詞 川村四郎 作曲

3. 家をばととのへ 力をあはせて
国をば富まさむ 乙女子われらの
尊き使命の 重きを知るや
4. いざ友たゆまず 心をあはせて
学びにいそしみ 道をばきはめつ
我等が母校の その名をあげむ

②昭和60年度～平成7年度

1. 雲居に聳ゆる 気高き富士が嶺^ね
朝夕仰ぎて 学べる我等の
輝く希望の 高きを知るや
2. 長閑けき海辺の 緑の松原^{のど}
朝夕望みて 勤しむ我等の
変はらぬ誓ひの 固きを知るや

勝田香月 作詞 川村四郎 作曲

3. 校訓を道標に 心を尽して^{おしへ するべ}
誠を至さむ 若人我等の^{いた わこうど}
尊き使命の 重きを知るや
4. いざ友たゆまず 心を協せて^{あは}
学びに勤しみ 道をば究めつ^{きは}
我等が母校の その名を揚げむ^あ

初の男子卒業生に合わせて校歌一部変更

昭和60年度の卒業式は去る3月3日母校講堂において盛大に挙行されるが、この式で60年にわたる女子のみの卒業式の姿は消え、初めて男子40名が加わって卒業の喜びを迎えることとなった。

従って、長年卒業生に親しまれた校歌の本質はくずさぬように配慮しつつも、男子生徒にも唱和できるように歌詞の一部が変更され、当日より歌われることになった。

平成8年度～現在

1. 千本浜に 光射し^{しよふう きつぎつ}
松風颯々 生气満つ^{あした}
ああ 目覚めの この朝^{うんかん}
夢は 雲間を縫い 碧空を翔ける^{へきくう}
今こそ 青春の中
我等 至誠の旗幟^{きし}かかけ
学びて可能性の 扉を叩かん^と

重 友純 作詞 菊池俊輔 作曲

2. 広き世界に 虹かける
進取の息吹き 日に新た
この 輝ける 学舎に
我等 肩組みかわし 希望を謳う
今こそ 研鑽の時^{すが}
清しき富士を 仰ぎつつ^{あす}
学びて大いなる 明日創らん

凜たり 加藤学園高校

加藤学園のあゆみ

大正15年度～平成7年度

1926-1995
History of Katoh Gakuen High School

I



1926

大正15年・昭和元年度

沼津淑徳女学院設立の経緯

大正十四年五月アメリカ留学から帰国されたふぢ先生によって、一年間の周到な準備のもと、大正十五年沼津市真砂町に設立されたのが沼津淑徳女学院である。



石原三郎氏



天岫接三氏



宇野秀吉氏



和田伝太郎氏



稲玉信吾氏

沼津淑徳女学院設立発起人

1927

昭和2年度

女学校開設を準備



淑徳女学院での料理実習 中央は加藤ふぢ先生



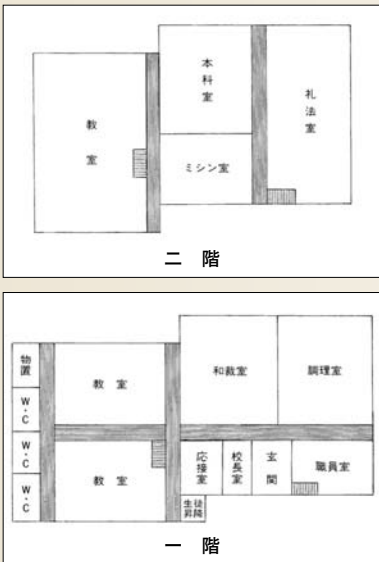
昭和初期の沼津停車場 人力車が見える

1928

昭和3年度

淑徳商業女学校開設

四月に平屋の小校舎が増設され待望の淑徳商業女学校が開校した。おりからの金融恐慌で、初年度の入学金は、定員五十名に対して、二十名であった。



淑徳女学院及び淑徳商業女学校校舎間取図



淑徳女学院及び淑徳商業女学校付近図

1930

昭和5年度

加藤信次郎先生帰国

アメリカに残留して学校への経済的支援を惜しまなかった創立者の夫君加藤信次郎先生が帰国し、ふぢ先生を助けて、本格的に学校の経営に参画された。



校主 加藤信次郎先生
この年帰国し学校の経営に奔走される

1931

昭和6年度

不況の中、充実の学校生活



当時の制服 鈴木一枝（旧姓相原）さんの若かりし頃

1932

昭和7年度

生徒急増

職業女学校への関心も高まり、苦勞していた卒業生の就職にも明るい見通しが持てるようになった。教職員も増加し、学校行事も活発に企画運営されるようになった。



裾野五滝館へ遠足

1933

昭和8年度

日本、国際連盟を脱退



淑徳商業女子校第4回生

1934

昭和9年度

沼津女子商業学校と改称

夏目漱石の「坊ちゃん」で有名な松山中学から本校へ赴任された禪太応先生。戦後は教頭としてふぢ先生を助け、本校発展に貢献された。



校歌と逍遙歌を作詞した川村四郎先生

1936

昭和11年度

創立十周年を機に
米山町に移転



新しい校長室で執務するふぢ先生

1937

昭和12年度

先生方も戦地へ

北京郊外の蘆溝橋事件を契機に日本と中国の本格的な衝突がはじまった。



1938

昭和13年度

食糧増産で校庭も畑に



校庭での食料増産

1939

昭和14年度

講堂と新館が落成



落成した講堂

1940

昭和15年度

戦時色さらに強まり
先生方も次々に応召
生徒も各所に勤労奉仕



土屋睦夫先生



江藤千万樹先生
応召された先生方

1941

昭和16年度

太平洋戦争に突入
女学生も軍事教練

創立者加藤ふぢ先生がこよなく愛したツツジの花が今年も前庭を彩っている。



体育祭での薙刀

1945

遂に沼津も被爆 夜半にB29襲来

昭和20年度



斬新だった米山町校舎も灰燼に帰した

1944

軍需工場へ学徒動員

昭和19年度

本校生徒は、石橋製糸沼津工場・東京麻糸紡績沼津工場・沼津兵器株式会社等に動員された。また一部生徒は、学校の実践室で沖電気の作業を引き受けた。一週間のうち学校で勉強できるのは、火曜日と木曜日の二日だけであった。



米山町校舎焼失直前の授業風景

1947

併設中学校設置

昭和22年度

教育の改革はまず小・中学校より始められ、この年から六・三・三制の下に、義務教育としての小学校・中学校の整備が始められた。本校にも新制中学が併設され、PTAも誕生した。



校友会誌「野 曉」復刊第一号

1946

貞明皇后御来臨

昭和21年度



貞明皇后御観覧 本校伝統の遣遙歌ダンスを見学される

1948

沼津女子高等学校と改称

昭和23年度

四月一日付で高校昇格の認可を得て、沼津女子高等学校と改称した。本科(修業年限三年)に商業課程・普通課程・家庭課程の三科が置かれ、別科(修業年限一年、及び二年)に商業、家庭を併置する総合高校となった。



改築成った講堂の内部

1949

昭和24年度

新校舎の下で

建設中であった第一校舎「本館」が二月に完成し、復興記念と二十五周年記念式典が行われた。



正門



本館近景

1950

昭和25年度

学校法人「加藤学園」
認可される



高校1年生の山梨昇仙峡旅行（11月）

1951

昭和26年度

第三校舎落成

十二月末、木造瓦葺モルタル二階建の美しい第三校舎（三百八坪）が竣工。工費は六百十三万円、放送室その他の付帯工事費五百十四万円であった。



完成した第3校舎

1952

昭和27年度

多彩な校友会活動

全国大会で健闘（卓球部）
全日本第三位（弁論部）



体操部主催第1回校内創作ダンス発表会で1位となった6ホームルーム「月の砂漠」



各種大会で活躍した卓球部

1953

昭和28年度

珠算・弁論・卓球全国大会へ
中学部も大活躍（珠算）

この年新聞部が県下高校新聞コンクールにおいて第一位となり、輝く県知事杯、県教育長楯を獲得した。



小中学校珠算大会の入賞者に賞状を贈る加藤ふぢ校長



県大会優勝の珠算部



三島の楽寿園で行われた同窓会総会

1954

昭和29年度

沼津女子商業高等学校に改称

校名を沼津女子商業高等学校並びに併設中学校と改称することになった。これは新制高校に昇格した後も伝統的な校名は容易に失われず、世間が「女子商」の愛称を依然として用いていたためである。



先生を囲むグラウンドのひととき

1955

昭和30年度

三十周年記念式典挙行

アーケード様式を取り入れた外観と、総ガラスの二階教室から、南側のバルコニーに出られる解放形式は従来の学校建築の概念を打破したものであって、地方のモデル建築として注目を集めた。

中央の建物が新築された第2校舎（現第1校舎）



三十周年記念体育祭の看板

1956

昭和31年度

加藤正秀先生 副校長に就任



加藤正秀先生と生徒会代表による座談会

1957

昭和32年度

図書館完成

工費一千四百五十八万円をもって第二校舎の内装工事に着手し中央階段途中に中二階の画廊を作り、テーブルと椅子を置いて談話室も兼ねるなど工夫がこらされた。



図書館前のルーフガーデン

1958

昭和33年度

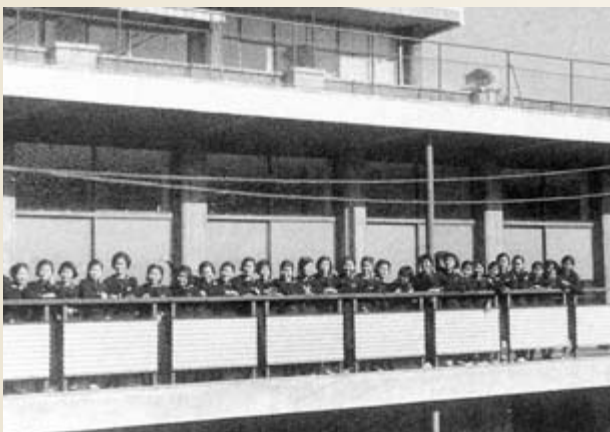
加藤ふぢ校長に 藍綬褒章贈られる



1959

昭和34年度

第四校舎（現旧B棟） 第一期工事完成

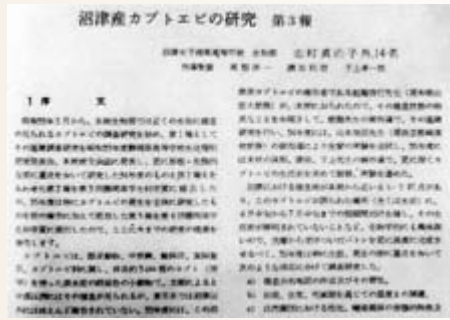


第4校舎（現旧B棟）ベランダに集う生徒達

1960

昭和35年度

生物部学生科学賞に輝く



昭和十三年以来設置されていた一年制別科は本年度第十二回の卒業をもって終止符を打つことになった。

1961

昭和36年度

高校生の急増にそなえ
第四校舎増築開始

入学希望者の増加に対処し、特に三十八年のピークに備えるため第四校舎の増築にとりかかった。



第4校舎（現D棟）増築の地鎮祭

1962

昭和37年度

第四校舎増築
躯体完成



体育祭と文化祭を合わせ本年度より暁野祭となる

1963

昭和38年度

ベビーブーム高校に波及
第四校舎（現D棟）完成



完成した第4校舎（現D棟）

1964

昭和39年度

第一校舎撤去、前庭整備

今年度六百九十名の生徒を迎え、商業科八学級、普通科五学級となった。すでに校舎も完備していたので、戦後まもなく建てた第一校舎を撤去し、その跡地を前庭として完備した。

ソフト・テニス・バレー全国大会出場



第19回国体（新潟）出場のソフトボール部員



9人制バレー全日本大会（前橋）に出場

校主先生の学園葬挙行



校主先生の御葬儀



このころまだ仮校舎の建物が残っていた

1966

創立40周年 沼津女子高校と再称

昭和41年度

第二次沼津女子高校時代 再び三科の総合高校に

本校への志願者も相変わらず激増し、普通科の伸びも著しくなったため校名を沼津女子高等学校に復帰させ、新たに保育科を設けて三科並列とした。折から創立四十周年に当たるため盛大に暁野祭が行われ、幼稚園の記念行事事業も始まった。



創立40周年記念暁野祭
宣伝塔（沼津駅前）

1965

加藤ふぢ先生 勲四等瑞宝章を受賞

昭和40年度



生存者叙勲で勲四等瑞宝章を
いただいた校長先生

この年本校の最も祝福すべきこととして、創立者加藤ふぢ先生が十一月に生存者叙勲の栄に浴して勲四等瑞宝章を授与された。この叙勲者はこの年まで全国で五百名足らずで栄誉あるものであった。

1967

地域社会の支援を得て 念願の幼稚園誕生

昭和42年度



沼津最大の学園、女子高校の偉観



ユニークなデザインの園舎

1968

運動場拡張第二期工事实施

昭和43年度

西隣の農地約二千平方メートルを買収して整地し、四十一年に次ぐ運動場拡張第二期工事を実施した。学校長加藤ふぢ先生は八十二歳になられたが、この年最後の旅行として修学旅行に同行され、元気な姿を見せられた。



八十二歳の校長先生中国路に行く
（修学旅行）



1970

昭和45年度

プナホー学園（ハワイ）と 姉妹校に

ハワイのプナホー学園と姉妹校関係を結び、来年の夏から生徒らの交流を積極的に進めることになり、本校生徒の外国への集団派遣も身近なものとなった。校友会ではバレー部が県大会で二位となり、東海総合選手権大会（愛知）に出場し、テニス・卓球両部はインターハイに出場、テニスは第四位に入賞した。



インターハイ第4位
入賞の庭球部



第39回インターハイ
入場する本校卓球部



第17回東海高等学校総合体育
大会ハレーボール競技大会（愛
知県）出場の本校選手たち

1971

昭和46年度

— 国際的視野を涵養 — 海外交流を積極的に推進

日米交換第一回夏季留学生として本校より三名の生徒が渡米、先方のハワイからは十九名が来校した。また、高校に進学部を新設して商業・保育進学の四部制を採用した。



日米交換留学の第一陣!!
ハワイの五つの高校から19名の生徒来校。本校生徒と共に

1972

昭和47年度

加藤ふぢ校長御逝去

五月十日には本学園創立者加藤ふぢ先生が八十六歳の天寿を全うされ、同日付を以て加藤正秀先生が女子高校・初等学校・幼稚園の第二代校長・園長に就任。



第二代校長・園長に
加藤正秀先生

1973

昭和48年度

新体育館完成



完成した新体育館

1977

昭和52年度

加藤学園時代

高校は加藤学園高校と改称

高校を加藤学園高等学校と改称し、その制服も校章も新しくなった。制服は杉野女子大学の宮崎直江教授のデザインによるもので、品位・清楚・質感・実用性を念頭においている。

1978

昭和53年度

記念館落成、特別展開催

本学園では創立五十周年と創立者の遺徳を記念して建設中の記念館が完工した。



50周年と創立者を記念して建設された記念館

1974

昭和49年度

沼津女子中学校最後の卒業式

戦後多くの私立学校に併設されてきた私立中学校は四十年代に入って次々に姿を消し独り本学園の沼津女子中学校のみが残っていたがそれも一昨年より募集を打ち切っていたので、これが最後の卒業式となった。

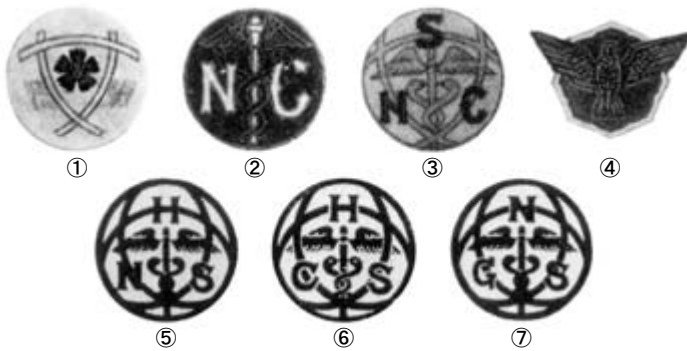


女子中学校（併設中学校）最後の卒業式

沼津女子中学校沿革

- 昭二一・四 沼津女子商業学校に新制中学校併設
- 昭二四・三 第一回卒業生
- 昭二四・四 沼津女子高等学校併設中学校と校名変更
- 昭二九・四 沼津女子商業高等学校併設中学校と校名変更
- 昭三八・三 第一五回卒業生
- 昭三八・四 沼津女子中学校と校名変更
- 昭三八・五 加藤学園名譽理事長加藤信次郎先生逝去
- 昭四七・五 創立者 沼津女子中学校長 加藤ふぢ先生逝去
- 昭四八・四 新入生募集中止
- 昭四九・四 加藤学園中学校と校名変更
- 昭五〇・三 第二七回卒業生（旧沼津女子中学校）一六名卒業

校章の歴史



50年の長い歴史の中で校名もまた幾度か変遷したが、これに従って校章も七たび移り変わっている。今そのあとを辿ると、まず写真の①は淑徳女学院時代、②は淑徳商業女学校時代、③沼津女子商業時代、④が英語追放の戦時中、⑤が第一次沼津女子高等学校時代、⑥が沼津女子商業高等学校時代、そして⑦が第二次沼津女子高等学校時代で、いずれもよく似ているが、文字の配列が違っている。



弧状をなす3本の線は校訓（三つの教え）と本の重なりを意味し、また鳥の飛び立つ姿を象徴している。

長い伝統のセーラー服よさようなら（今年で廃止）



1980

台湾育達高級商業高校と 姉妹校の締結

昭和59年度



昭和55年度

1984

徳育元年

「徳育元年」として、正式に教科の中にとり入れ「心の育成」をはかり豊かな心を育てることを目的としている。



韓国の青蘭女子高校と
姉妹校となる(59年2月)



対面式 左側2、3年、右側新入生

1986

創立六十周年、 創立者生誕百年、 記念事業スタート

昭和61年度



11月15日 加藤学園60周年・創立者生誕百年記念式典で熱い決意を述べる学園長

1989

昭和六十四年度、 普通課程を改組決定

昭和64年度・平成元年度



政府は新元号を平成と決定し1月8日から施行



活躍する男子バスケ部員たち

1991

制服一新

平成3年度



1990

激動の九〇年代へ

平成2年度

加藤瑠美子先生、
加藤学園高校第三代校長に
校訓額新装される



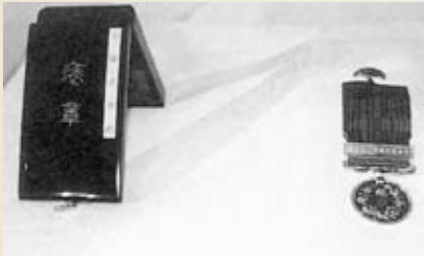
1993

OA商学部スタート

平成5年度

本年度より七十年近い歴史をもった商業部をOA商
学部と名称を変更した。

加藤正秀学園長、藍綬褒章受賞



加藤正秀学園長が受賞した藍綬褒章と表彰状

1992

サッカー部、 公式戦初勝利

平成4年度



県東部インターハイ予選で念願達成の
サッカー部 御殿場南高校グラウンド
にて

1995

創立七十周年スタート

平成7年度

創立七十周年を記念して落成した新校舎
普通部・進学部・OA商学部の三年生が
新校舎へ

加藤学園高等学校は創立七十周年を迎えた。

創立者加藤ふぢ先生の建学の精神、「日本の伝統的
文化を学び、身につけること」、「国際的視野と教養を
もつこと」、「バイ

オニア精神をもつ
てことに当たるこ
と」は加藤正秀二
代目校長、加藤瑠
美子校長へと継承
されている。加藤

正秀学園長は七十
周年を迎えるにあ
たり、本校の建学
の精神は決して古
いものではなく、
今こそ強調される
べきであると述べ
ている。



1994

新校舎建設着工

平成6年度



7月26日、地鎮祭で挨拶する
学園長

加藤学園のあゆみ

平成8年度～平成18年度

1996-2006
History of Katoh Gakuen High School

II



待望の野球部創設される



野球部が創設され、一年生だけの新チームが発足した



霧ヶ峰高原教室高山植物のスケッチ



キャッシー中島氏の講演



新校舎の建設のため、取り壊される第二校舎と中庭

平成八年度は、待望の野球部が創設され、県高野連百十番目の加盟校となった。鈴木裕和監督、月足知浩主将（現本校国語教諭）、一年生だけ三十余名のチーム。創部五ヶ月にして東部大会五位、県大会への出場権を獲得した。

八月一日、創立七十周年記念事業の新校舎設立のため、第二校舎と東昇降口が取り壊された。階段も、廊下も多くの生徒の足跡を刻印し、柔らかに摩滅し、日向の温もりと木の香りがする唯一の木造校舎であった。新校舎は冷暖房完備の鉄筋四階建て。十月十七日に着工した。

学校行事では、四月十五日の創立記念日にキャッシー中島氏による講演が行われた。

恒例の芸術鑑賞会は、五月二日沼津市民文化センターで、歌劇「カルメン」ハイライト版が上演された。

暁野祭「文化の部」は、六月一・二日に実施され、「体育の部」は普通部・OA商学部が六月三日に、進学部・特進部が翌四日に行われた。

霧ヶ峰高原教室は七月二十七日から八月一日にかけて二泊三日で、普通部・OA商学部の一年生が参加した。

一日体験入学は八月三日に、近隣中学校七



化学部が日本学生科学賞で入選二等



芸術鑑賞会は歌劇「カルメンハイライト」を鑑賞した



吹奏楽部は全国高文祭に県代表として参加した



修学旅行（シンガポール）

国内外の出来事

七月に中国で地下核実験を強行し、十二月にはペルーの日本大使公邸で人質事件が起きた。国内では、九月に民主党が結成され、十月に島根県の加茂岩倉遺跡で三十七個の銅鐸が出土して話題を呼んだ。十二月に広島県の原爆ドームと、厳島神社が世界遺産に登録され、翌年三月に秋田新幹線が営業を開始した。

十一校、生徒四百三十四名が参加して行われた。

夏期学習合宿は八月十八日から二十一日まで、特進部と進学部（一部）の二年生が参加して行われた。

修学旅行は、十一月二十四日から二十八日にかけて、普通部二年生とO A商学部三年生がシンガポール・マレーシアへ、進学部二年生はハワイへとそれぞれ旅立った。

校友会活動では、女子ソフトテニス部がインターハイ全国大会へ二組出場し、女子ソフトボール部はインターハイ県予選準決勝で、国体県予選決勝で惜敗した。卓球部は、全日本卓球選手権ジュニアの部東部大会個人戦で優勝し、東海大会へ四名出場。情報処理部は、第十回全国日本語ワープロ競技大会で四年連続団体優勝、個人の部も一位から三位を、英文ワープロの部も団体戦二位、個人戦一位・二位を独占した。ワープロ部も全商主催全国大会県予選で日本語の部三位まで、英文の部二位まで独占、日検主催全国大会日本語三位、英文二位と活躍した。

美術部は、「国土緑化推進運動・育樹運動ポスターコンクール」で国土緑化推進会長賞を受賞した。化学部は、第三十六回生徒理科研究発表県大会で最優秀賞を受賞した。



東面は彫りの深い表情を見せる



創立70周年記念事業のⅡ期工事「C棟」が完成した



芸術鑑賞会は演劇「妖鬼伝説」を鑑賞した



第18回県学生音楽コンクールで3年の武内香澄さんが弦楽部門で入選した

平成九年度は、創立七十周年記念事業の新第二校舎（現C棟）が七月二十三日に落成した。新校舎落成に伴い、校舎棟の名称をA棟・B棟・C棟・D棟と改めた。また、第八回県学生音楽コンクールの弦楽部門で、武内香澄さん（普通部三年）が入選した。

学校行事関係では、芸術鑑賞会が五月二日に沼津市民文化センターで開催され、劇団「潮流」による『大江山妖鬼伝説』が上演された。暁野祭「文化の部」は、五月三十一日・六月一日に実施され、「体育の部」は普通部・O A商学部が六月三日に、進学部・特進部が翌四日に行われた。

霧ヶ峰高原教室は七月二十八日から八月三日まで、普通部・O A商学部の一年生が参加した。

一日体験入学は八月七日に、近隣中学校七十五校、生徒四百二十八名が参加して行われた。

夏期学習合宿は八月十八日から二十一日まで、特進部と進学部（一部）の二年生が参加して行われた。

修学旅行は、普通部二年生とO A商学部三年生がシンガポールへ、進学部二年生がハワイ、特進部二年生がパリへとそれぞれ旅立った。



大学を招いて進学相談会を実施



1年生の霧ヶ峰高原教室 八島高原にて



今年も前庭の池にカルガモが住み、雛がかえった



2年渡邊佳容さんが静岡県高校ゴルフ選手権で優勝した

国内外の出来事
 平成九年度は、七月に香港がイギリスから中国に返還された。国内では、古都奈良が世界遺産に登録され、翌年二月には長野冬季オリンピックが開催された。



化学部が静岡県環境科学研究所で展示発表



卓球部が東部新人戦で優勝

校友会活動では、平成七年度に創部の男子ハンドボール部が新人戦県大会で三位、総体予選三位と活躍。国体選抜メンバーに三名選ばれた。女子ソフトテニス部は、岩城・佐野組が国体県予選で優勝、東海大会で二位となった。女子ソフトボール部は高校総体東海大会決勝で惜敗。創部二年目の野球部は秋季高校県大会でベスト8入りと快調。ゴルフ部の二年渡邊佳容さんは静岡県高校選手権で見事優勝した。卓球部は、全日本卓球選手権ジュニアの部予選ベスト8。東部高校新人大会で優勝。陸上部も新人大会決勝に進出、八〇・三〇〇メートルで県大会出場。バドミントン部は女子部員四名ながら健闘し、インターハイ地区予選団体四位で県大会へ、ダブルス県ベスト8入りした。剣道部もインターハイ東部予選女子個人・団体六位で県大会へ進み三回戦敗退。

吹奏楽部は、「マーチングバンド・バトントワリング」全国大会に六年連続出場権を得、銀賞に入賞した。ワープロ部は全国日本語ワープロ競技大会団体三位・個人優勝・二位。美術部は、静岡県実務協議大会商業美術の部、第五部門優勝。化学部は生徒理科研究発表大会最優秀賞と今年も体育・文化部ともに活躍した。

ワープロ部全国で大活躍



宮間俊之とニューハードに参加



朝霧野外活動センターで新入生の合宿



新人戦東部大会優勝の男子ハンドボール部



愛鷹総合グラウンドで初の全校体育祭

平成十年度は、校内では、ワープロ部が全国日本語ワープロ競技大会の文書作成部門で、団体戦で三位、個人戦では二年連続優勝と二位を独占する快挙を成し遂げた。

学校行事関係では、本年度より新入生オリエンテーション合宿が四月十日から十六日まで特進部と進学部を対象に朝霧高原で実施された。芸術鑑賞会は、四月三十日に沼津市民文化センターで、ジャズコンサートが開催された。暁野祭「文化の部」は、五月二十九日・三十日に、「体育の部」は、六月二日に全校合同で初めて愛鷹グラウンドを会場に行われた。霧ヶ峰高原教室は、七月二十八日から八月三日まで、普通部とOA商学部の一年を対象に行われた。また、本年度から一日体験入学は、八月と十一月に実施することとなった。第一回は、八月十日に近隣の中学校の生徒・保護者・教師二百二十名が参加した。第二回は十一月十五日に実施された。夏期の学習合宿は、八月二十一日から二十四日まで、涼しい南箱根研修センターで行われた。特進部と一部の進学部の二年生を対象に、主要教科の基礎力強化、自学の徹底を目的とした。また、土屋興治教頭による進学講話もあり、進路決定について真剣に考える有意義な時間を過ごした。



化学部が環境保全県知事褒賞を受賞



一日体験入学で徳育の授業を体験



三年生のテーブルマナー



進学部・オーストラリアの修学旅行



卒業式の後、グラウンドに残された言葉

国内外の出来事

五月にインドとパキスタンで世界の反対を押し切って核実験を強行した。

国内では、七月に第十八回参議院選挙で自民党が惨敗し、小淵恵三内閣が成立した。

修学旅行は、進学部二年生が九月二十八日から十月三日まで本年度オーストラリアに変更し、シドニー市内の研修を中心に現地高校生との交流会や、ファームでの農場体験を楽しんだ。特進部二年は十一月四日から十日までパリへ、OA商学部三年は十一月二十三日から二十八日までシンガポールへそれぞれ旅立った。

校友会活動は、女子ソフトテニス部がインターハイ予選県大会でベスト16に、卓球部もインターハイ予選県大会でダブルスがベスト4、シングルスが七位、同東海大会でダブルスがベスト8と健闘した。新体操部はインターハイ予選県大会団体七位、個人十一位、国体予選県大会で総合五位に入った。卓球部は、県強化選手六名枠の内、三名の女子が選ばれた。男子ハンドボール部も四名が国体静岡県選抜に選ばれ国体東海ブロック大会で活躍した。創部三年目の野球部は春季大会県大会で三位に、全国高校野球選手権静岡大会は二回戦で敗退した。吹奏楽部は全国カラーガードコンテストで優秀賞を、全国マーチングバンド・バトントワリング東海大会で銅賞、県高校吹奏楽コンクール大会で銅賞となった。化学部は、山崎賞他、生徒理科研究発表大会で、四年連続最優秀賞に輝いた。

「至誠の灯」完成



9月8日「至誠の灯」の除幕式 寄贈者 酒井喜代子様、制作者 堤直美様



道遥歌 暁野祭で演技の後



酒井喜代子様に感謝状の授与

平成十一年度は、九月八日に卒業生で真砂会の顧問酒井喜代子氏より「至誠の灯」のブロンズ像（堤直美氏作）が寄贈され、噴水傍に設置された。平成十二年度より、O A商学部が男女共学になることが決まった。資格の時代と言われている昨今、パソコンやワープロ、簿記などの検定を受け資格を取得し、就職や進学を目指す部として注目される。

学校行事関係では、本年度より普通部・O A商学部で実施されていた霧ヶ峰高原教室が廃止されることになった。新入生オリエンテーション合宿は四月二十・二十一と二十三・二十四日に特進部と進学部の一年生を対象に実施された。芸術鑑賞会は四月三十日に、ミュージカルが上演された。暁野祭「文化の部」は五月二十九・三十日に、「体育の部」は六月一日愛鷹グラウンドで行われた。一日体験入学は、八月八日と十一月七日に行われた。夏期学習合宿も例年通り南箱根研修センターで、八月十六日から十九日まで、特進部二年と一部の進学部二年で行われた。一日、十数時間に及ぶ勉強に真剣に取り組んだ。

修学旅行は、進学部二年生はオーストラリアへ。A・Bの二班に分かれ、A班は九月二十七日から、B班は一日遅れで出発した。オー



化学部が日本学生科学賞で入選一等



卓球部はインターハイにダブルスで出場した



南箱根研修センターで学習合宿

国内外の出来事

十二月にポルトガル領マカオが中国へ、アメリカ合衆国がパナマ運河をパナマへとそれぞれ返還した。国内では、四月に奈良県明日香村の飛鳥池遺跡から「福本銭」が、七月には同遺跡から「福本銭」の鋳型が出土し、翌年二月には明日香村酒船石遺跡で亀形石造物が出土して話題を呼んだ。また同月大阪府知事に太田房江氏が当選し、全国で初めての女性知事が誕生した。三月には北海道の有珠山が噴火した。また日光の神社が世界遺産に登録された。

ストラリアは二年目を迎え、シドニー市内をはじめ、二〇〇〇年に開催されるオリンピック施設なども見学した。特進部二年生は十一月十八日からパリへ、パリ市内とルーブル美術館、ベルサイユ宮殿、フォンテーヌブローとバルビゾンなどを訪れた。普通部二年生は十一月十九日からシンガポールへ、OA商学部三年生は十一月二十日からシンガポールへ、ジョホールバル、ナイトサファリ、セントーサ島を訪問した。

校友会活動は卓球部が十七年振りにインターハイ全国大会に出場した。女子ソフトボール部はインターハイ予選県大会三位、女子ソフトテニス部は、インターハイ予選県大会で団体二位、同東海大会団体三位、国体予選で森下・杉山組が二位、私学大会優勝と健闘し、新体操部もインターハイ予選県大会で六位となった。男子バスケットボール部は、東部選手権大会で優勝、大川翼君が国体秋季大会県選抜に選ばれ、渡辺正光先生もコーチとして参加した。ワープロ部は、全国日本語ワープロ競技大会の文書作成部門団体戦で三位となった。美術部は、読書感想画コンクールで優良賞、国民年金ポスターコンクールで県教育長賞を受賞した。

加藤・リンカレッジ開学



校内LANが完成したkatoh-net



入学許可証を受け取るOA商学部代表



駐日大使フォーリー氏が来校



芸術鑑賞会はブレイメンアンサンブルの弦楽合奏



リン大学へ短期留学



暁野祭にて 前庭の池に飛来したカルガモ

平成十二年度は、OA商学部が男女共学となり、男子生徒七十一名が入学した。また、加藤・リンカレッジ（日米合弁大学）が開学した。高度情報化社会を見据えて「katoh-net」が充実し、快適な通信環境が確保された。実践室のコンピュータがLANに接続され、図書室も「図書管理システム」が導入された。本年度はハワイのプナホウ・スクールとの留学生交換事業が三十年目を迎えた。九月二十一日には生徒が将来の日米関係について英語で討論する「スチューデント・サミット」が初等学校で開催され、本校からは三年の武智真緒さん・庄司美姫さんが参加した。十一月八日には駐日米国大使のトーマス・S・フォーリー氏が来訪され、プナホウ・スクールをはじめとした多くの国際交流プログラムの説明を受けた。

芸術鑑賞会は、五月二日に沼津市民文化センターでバイオリン奏者として名高いジャン・チャヌさん率いる弦楽合奏団「ブレイメンアンサンブル」の公演が行われた。パロック音楽中心であるが、馴染みのある曲が多かったため、生徒たちもピアノシモのときは息を止めて聴くような素晴らしい鑑賞態度であった。



スチューデント・サミットでスピーチをする武智さん（右）と庄司さん（左）



ハワイの修学旅行で高校を訪問し、スピーチを体験



沼津市では珍しい積雪



講演する小出監督

送別会でコンサートとプロ選手の演技



国内外の出来事

五月にロシア大統領にプーチン氏が就任し、国内では、四月に小渕恵三内閣が総辞職して、自公保三党連立の森喜郎内閣が成立した。七月には九州・沖縄サミットが沖縄県名護市の万国津梁館にて開催され、同月には三宅島で噴火が発生し、島民が集団移住を強いられ、二千万札もこの月に発行された。九月にはロシア大統領プーチン氏が来日し、十月に白川秀樹博士がノーベル化学賞を受賞した。翌年の一月には中央省庁が一府十二省庁として発足し、二月にはアメリカ原子力潜水艦が、日本の漁業実習船「えひめ丸」に衝突して多くの死傷者を出した。



全国高校総合文化祭静岡大会
吹奏楽部・バトンチアリーダー部・化学部が参加した

暁野祭の「文化の部」は六月三・四日に、「体育の部」は六日に愛鷹グラウンドで盛大に実施された。

海外修学旅行を始めて十年が経過し、特進部はロンドンへ、進学部はハワイへ、総合学部とOA商学部はシンガポールへと旅立った。

杉山吉宏君（三年）が、黄瀬川に転落した小学生を救助したことにより、沼津警察署から感謝状が渡され、学校長からも善行賞が贈られた。一月十三日に、小出義雄氏の「マラソンと小出イズム」という演題で特別講演会が開かれた。二月十六日には沼津では珍しい積雪が見られた。三年生の送別会では「梅原晃とその仲間」によるコンサートと、プロバスケ選手による模範演技が行われた。

校友会活動では、全国高校総合大会へ女子ソフトテニス部が見事ベスト16、ジャパンカップ、全国総合ソフトテニス選手権皇后杯に出場した。女子ソフトボール部は県代表として健闘したが惜しくも初戦で敗れた。バスケットボール部は男女共に新人大大会五位、バドミントン部の大野泰正君も同大会シングルスで優勝した。

化学部は「水質分析における公定法と簡易法の比較」で第十七回山崎賞を受賞した。

全校男女共学に



情報の授業を視察するインド大使



総合学部一期生 新入生オリエンテーション合宿



献血で日本赤十字社から表彰される



放課後は生徒で満員になるサテライト教室



新しくなった夏の制服



暁野祭の「あけヴィー」



真剣な事務実習の準備

平成十三年度は、本校の女子教育の伝統を守り続けてきた普通部を総合学部と改称し、男子生徒三十六名を受け入れ、全校共学となった。総合学部は、二年次より「進学」「教育福祉」「芸術」に分かれ、予備知識と体験学習を重視したカリキュラムとなっている。四月十三日には、沼津市民文化センターで、創立記念演奏会が開かれ、卒業生、斎藤雅昭さんのピアノ、樋口貴子さんのフルート演奏が行われた。斎藤さんは、在学中、県学生音楽コンクールピアノ部門で一位となり、ウイーン国立音楽大学ピアノ演奏学科卒業後、ウイーンでプロ演奏家として活躍している。樋口さんは、本校吹奏楽部で活動し、武蔵野音楽大学器楽科を主席で卒業後、高校の音楽講師及び演奏家としても活動している。五月十一日にはアフターブ・セット駐日インド大使が来訪され、「文化の架け橋となるコミュニケーション」と題して講演され、深刻な環境問題解決のためには各国の相互理解と協力の必要性を強調、そのためには言語学習がいかに大切であるかを説いた。

暁野祭「文化の部」は六月二・三日に、「体育の部」は十一月一日に愛鷹グラウンドで盛大に実施された。今年のテーマは「STAND UP」。六月二十五日、TBSの人気番組「筋肉



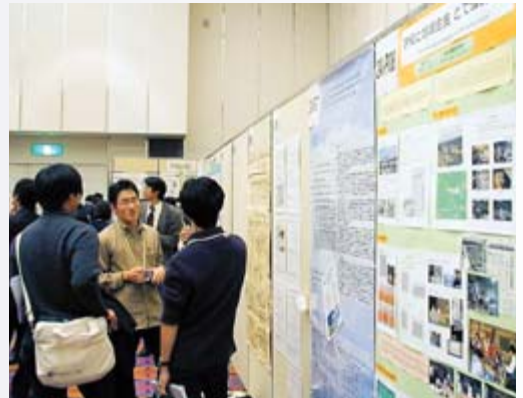
全校生徒が「テレビ体操21」に出演



創立記念日にピアノの斉藤雅昭さんとフルートの樋口貴子さんの演奏を鑑賞した



恒例のカルタ会が1月におこなわれた



化学部が世界湖沼会議で展示発表

国内外の出来事

九月にアメリカで同時多発テロが発生した。国内では、四月に自公保三連立の小泉純一郎内閣が成立した。十月にはアメリカの同時多発テロ発生により、日本でもテロ対策特別措置法が公布され、同月に野依良治氏がノーベル化学賞を受賞した。十二月には皇太子妃が内親王（称号敬宮。名前 愛子）をご出産し、同月に日本の巡視船が北朝鮮の工作船と思われる不審船に射撃し、沈没させた。翌年一月には、奈良県明日香村のキトラ古墳で、獣頭人形像の壁画が発見され、二月にブッシュアメリカ大統領が来日した。



野球部が秋の県大会で準優勝した

「番付」の収録が本校で行われ、「テレビ体操21」をパパイヤ鈴木と共に全校生徒がグラウンドで一斉に踊った。今年度より夏服のデザインが一新され、シャツはブルーのボタンダウン。ベストは紺とオフホワイトで、ポロシャツの長袖と半袖が加わった。

学習合宿は八月二十六日から二十九日まで行われ、特進部と、一部の進学部二年生が参加した。修学旅行はアメリカの同時多発テロのため、海外旅行を急遽中止し、国内旅行に変更され、二月に実施した。

校友会活動は、女子ソフトボール部がインターハイ県予選、東海高校総体、県ソフトボール選手権で優勝した。女子ソフトテニス部もインターハイ県予選で団体ベスト4、東海総体個人三位となった。野球部は秋季東海地区高校野球県大会準優勝、男子ハンドボール部は東部五位、女子も東部四位で共に県大会へ進んだ。女子バスケット部も東部三位、卓球部ダブルス六ペア、シングルス十名が県大会へ進んだ。新体操部の高村知里さんが東部個人で優勝、県大会へ。剣道部個人六位、団体女子四位で県大会進出。吹奏楽部は全国マーチングバトントワリング東海大会で銀賞を、化学部は生徒理科発表会県大会で優秀賞を獲得した。

中枢としての校舎取り壊し



芸術鑑賞は演劇「11人の怒れる男たち」



暁野祭のマスコットは牛乳パック製の「暁ット」



夏の大会 県ベスト8に



特進部2年の学習合宿



11月16日 地鎮祭



9月 旧校舎の解体工事

平成十四年度は、旧B棟を取り壊し、新校舎が建設されることになり、十一月十六日に地鎮祭が行われた。旧B棟は昭和三十四年に竣工し、全加藤学園の中枢としての歴史を刻んできた。新B棟は平成十五年七月に完成した。

芸術鑑賞会は、四月十七日、沼津市民文化センターにて東京芸術座の「十二人の怒れる男たち」が行われた。

「暁野祭」のテーマは『戦闘モードく力のある限り!』『文化の部』は六月一・二日に、「体育の部」は四日に愛鷹グラウンドで行われた。

一日体験入学は近隣中学の生徒・保護者対象に八月十七日・十九日に行われた。

八月十七日から十九日、TOTO東富士研修所で進学部二年の一部、二十六日から二十九日、富士教育研修所で特進部二年の学習合宿が実施された。

九月二十五日、筆頭教頭土屋興治先生が逝去された。昭和四十年より奉職され、三十八年間、幅広い人脈により本校の進学指導を確立。その存在はあまりに大きく、学園は深い悲しみに包まれた。

総合学部一年に中国遼寧省丹東市からの留学生、張一凡さん、趙国良君、李曉緒さんを



葬儀には大勢の生徒が参列し、冥福を祈った



逝去された土屋興治教頭先生



校内合唱コンクール 優勝はPII1の「Best Friend」

国内外の出来事
 平成十五年三月にアメリカ・イギリス軍がイラクを攻撃し、イラク戦争が始まった。国内では、五月にサッカーのワールドカップを共催し、九月に小泉首相が訪朝し、日朝平壤宣言に調印した。十月には小柴昌俊氏がノーベル物理学賞を、田中耕一氏がノーベル化学賞を受賞した。



沢木啓介氏の講演



女子ソフトボール部、インターハイでの堂々の入場行進

迎えた。三人はバスケットボール部の選手として活躍し、日本の大学・短大にそれぞれ進学した。

修学旅行はO A商学部がオーストラリア、特進部がイギリス、進学・総合学部がハワイへ旅立った。

校友会活動は、女子ソフトボール部が高校総体県大会優勝、同東海大会三位、女子ソフトテニス部がインターハイ県予選団体ベスト8、国体ベスト16と健闘した。野球部は日頃の猛練習が実を結び、全国高等学校選手権静岡大会で初のベスト8になった。創部七年目の快挙であった。新体操部はインターハイ県予選で高村知里さんが個人総合七位、卓球部もインターハイ県予選男子シングルスで浅井貴裕君が七位、同東海大会でベスト8、中部日本卓球選手権でベスト16入り、女子も新人戦県大会第三位で東海大会へ。男子バスケットボール部は選抜優勝大会県三位。バドミントン部は県高校バドミントン大会男子シングルスで勝又健一郎君が準優勝。陸上競技部は、東海新人大会で堀井重利君が五〇〇〇メートル競歩で第四位、渡辺祐貴君が五位。全日本マーチングバンドバトントワリング県大会で吹奏楽部が金賞、チアリーダー部が銀賞、東海大会でも銀賞に輝いた。

新校舎B棟完成



明るい新校舎「新B棟」が完成した



服部誠さん「罎-1」



横井山泰さん「吉祥来る」

卒業生の画家の作品2点が寄贈され、新B棟に展示されている



落ち着いた雰囲気図書室

平成十五年度は、第三期新校舎のB棟が完成した。一階に図書室、二階に職員室、三階から四階に普通教室十四教室とゼミ室も設置された。五階に法人本部も置かれ学園の中核として新しい歴史を刻むこととなった。

新入生オリエンテーション合宿は、四月九日から十五日まで、特進部・進学部・総合学部・OA商学部の順に実施された。

芸術鑑賞会は、四月二十三日に沼津市民文化センターで「寺内タケシとブルージーンズ」の公演が行われた。ヒットメドレーから「運命」、「慕情」、「津軽ジョンガラ節」とバラエティーに富んだ心に残るコンサートであった。新校舎建設のため「体育の部」は六月三日、「文化の部」は、十月四・五日に実施された。スローガンは「DO our best!」。

延岡市主催の第四回「若山牧水青春短歌大賞」に一年杉本桃子さんが選ばれた。全国から八千九百八十一首の応募があった。

卒業生も活躍している。平成十二年度卒業生の小口雅裕さんはスノーボードクロスでの年日本ランキング一位。現在もプロ選手として活動している。画家の横井山泰さんは平成六年度卒。平成十六年岡本太郎賞を受賞。同じく服部誠さんは平成四年度卒。平成十四

海外修学旅行



芸術鑑賞会「寺内タケシとブルージーンズ」



進学部・ハワイ



特進部・イギリス、フランス



OA商学部・オーストラリア



総合学部・ハワイ

国内外の出来事

この年度は、五月にブッシュアメリカ大統領がイラク戦争の終結を宣言し、十月には中国が有人宇宙船の打ち上げに成功した。また十二月にはアメリカ軍がフセイン元イラク大統領を拘束し、ロシアではプーチン氏が大統領に再任された。国内では、四月に日本郵政公社が発足し、六月には有事関連三法案が、七月にはイラク復興対策特別措置法がそれぞれ成立した。十月には衆議院が解散し、十一月に第四十三回総選挙が行われ、その結果、第二次小泉純一郎内閣が成立した。また十月には最後のトキが死亡して、日本産のトキが絶滅した。翌三月には九州新幹線が部分開業した。



スノーボード日本一、卒業生の小口雅裕さん

こもれ日の中で
お婆さんこしかける
かごいっぱいインゲンマメと



短歌大賞を受賞
杉本桃子さん



野球部が夏の県大会で
ベスト4になった

年第七十回記念独立展新人賞、平成十五年第七十一回独立展入選。共に新進画家として注目を集めている二人の作品は寄贈され、校長室前に展示されている。

海外修学旅行十二年目を迎え、特進部はイギリス・フランスへ、進学部は総合学部はハワイへ、OA商学部はオーストラリアへとそれぞれ旅立った。

校友会活動では、野球部が静岡県大会でついにベスト4に。創部八年目の快挙であった。全国高校総合大会へ陸上競技部の堀井君が五〇〇メートル競歩で、卓球部の浅井貴裕君が個人戦へ出場した。女子ソフトテニス部は綱島・子安さんが出場、国体でも神山・綱島・子安さんが活躍しベスト16。他チアリーダー部もミクスダンスドリルチーム日本大会に出場した。また陸上部は静岡県高等学校駅伝競走大会七位に。チアリーダー部・吹奏学部が全日本マーチングバンドバントワリング東海大会で銀賞。美術部は、「沼津上土商店街絵馬コンテスト」で市長賞、写真部は東部高等学校写真真教室で一年佐々木まり子さんが特選、化学部は、「ミシマバイカモの生育条件」で生徒理科研究発表県大会優秀賞を受賞した。



創立者加藤ふぢ先生の33回忌



芸術鑑賞会「山月記」



暁野祭のマスコット「ハーティちゃん」



ふれあいキャンプでの楽しい夕食



モハマド君が寄付のお礼に来校した

平成十六年度は、校内ではOA商学部を商学部と改称した。二月六日塚谷次雄先生が急逝された。たくさんの愛蔵書が図書館に寄贈された。

学校行事関係では、四月十五日の創立記念日に沼津市民文化センターで芸術鑑賞会が行われた。劇団「青い鳥」による『山月記』が上演され、教科書にも出てくる名作が独特な脚色で上演され興味深いものがあり熱心に鑑賞した。新入生オリエンテーション合宿は四月十六日から二十二日まで総合学部、商学部、特進部、進学部の順で実施された。「暁野祭」のテーマは「YOU CAN DO IT」。「文化の部」は六月六日、「体育の部」は六月八日に愛鷹グラウンドで実施された。学習合宿は、進学部二年の希望者は八月十一日から十三日までTOTO東富士研修所で、特進部二年生は裾野の富士研修所で行われた。一日体験入学は、今年も二回、八月八日と十一月十三日に行われた。

修学旅行は進学部・総合学部二年生は十一月二十四日から二十九日までハワイへ、商学部二年生は十一月二十四日から二十九日までオーストラリアへ、特進部二年生は十一月二十四日から三十日までイギリス・フランスへ



浜松花博での遠足



生徒会の募金活動



演劇部のウエストサイドストーリー



送別会で「ヒロシ」を招いた



高校総体へ出場したテニス部高森・子安組



化学部が優秀賞を受賞

国内外の出来事
 この年度は、八月にアテネオリンピックが開催され、十一月にはアメリカ大統領にブッシュ氏が再選された。十二月にM9の史上最大級のスマトラ沖地震が発生し、大津波による大災害となった。国内では、四月に浜名湖花博が開催され、五月にはイラクで日本人記者二人が殺害される。同月には小泉首相が二度目の訪朝をし、拉致被害者家族五人が帰国する。六月には紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産に登録され、七月に第三十回参議院選挙が行われ、十月には新潟中越地震が発生して大きな被害を出した。



故 塚谷次男先生

平成17年2月6日、塚谷次男先生が56歳の生涯を閉じた。学園に27年間勤務し、英語教育、国際交流に大きな足跡を残された。

と旅立った。二月二十四日の生徒会主催の三年生送別会では芸能人「ヒロシ」を招いて楽しい一時を過ごした。

校友会活動は、女子テニス部がインターハイ県予選個人で高森・子安組が優勝し、同東海大会ベスト8、全国大会に出場したが、二回戦で惜敗。男子ソフトテニス部は、新人戦個人で榎田・松島組が東海大会に出場。女子ソフトボール部は県高等学校選手権大会ベスト4、県高等学校新人戦東部大会優勝、高校総体東部大会五位。柔道部は高校総体東部大会で水野雄一君が五位・新人戦東部大会一位、全日本ジュニア東部予選で大庭清孝君が優勝した。チアリーダー部はミスダンスドリルチーム日本大会・ソングリーダー部門で第十二位と健闘した。陸上競技部は、東海高等学校対抗陸上競技大会・走り高跳びで二年玉井悠斗君が一メートル九〇を出し八位になった。玉井君は東海陸上競技選手権大会の一〇メートルハードルにも出場、八〇〇メートルでは一年小川恭正君が六位に、五〇〇メートル競歩で鹿瀬匠君が十八位に入賞。剣道部は沼津市剣道大会団体で優勝。演劇部は沼津地区高校演劇合同発表会で創作劇「天地峡」を発表し、最優秀を受賞し、県大会へ進み優秀賞を受賞した。

創立八十周年記念委員会発足



創立80周年を迎え、記念の看板が掲げられた



芸術鑑賞会はゴスペル、津軽三味線、太鼓のコラボレーション



文化講演会 勸山弘住職



記念講演会 森清範貫主

平成十七年度は、創立八十周年記念委員会が発足し、平成十八年十一月十五日に行われる記念式典準備に入った。

学校行事関係では、四月に新入生オリエンテーション合宿が行われた。特進部・進学部は朝霧野外活動センターで、商学部・総合学部は国立御殿場青年の家で実施された。芸術鑑賞会は創立記念日に沼津文化センターでゴスペルユニットのVOICE OF JOY、津軽三味線の澤田勝司・勝玲、太鼓のDODANNI-PAによる演奏会が行われた。暁野祭「文化の部」は六月五日、「体育の部」は七日に愛鷹グラウンドで行われた。夏期学習合宿は、進学部の二年生の一部がTOTO東富士研修所で、特進部二年生は裾野の富士研修所で行われた。一日体験入学は、八月七日と十一月十二日に実施され、近隣の中学生が多数参加した。修学旅行は、特進部がイギリスのテロのため旅先を変更して十一月二十四日から三十日までカナダへ、総合学部は二十五日から三十日までハワイへ、進学部と商学部は、二十六日から十二月一日までハワイへと旅立った。十一月十五日には、京都清水寺官長・森清範貫主を招聘し、創立八十周年記念講演が行われた。ノーベル平和賞を受賞したマータイ氏が



全国大会で金賞を受賞



国体110mHで5位の玉井悠斗君



修学旅行 ミズーリ号の見学



全国高校総体ベスト32、64のテニス部



国体5位の荒美咲さん



ユタ州への短期留学で小学校の先生体験

国内外の出来事
 七月にロンドンで地下鉄・バスを標的とした四件の爆弾テロが発生し、八月にはアメリカ南部にハリケーン「カトリーヌ」が上陸し、大被害を与えた。十月にはインドネシアのバリ島と、インドのニューデリー、ヨルダンのマンセンの高級ホテルで、同時爆弾テロが発生した。国内では、三月から五月に開催されていた愛知万博に二二〇五人が入場した。四月には静岡市が全国十四番目の政令指定都市に移行し、同月にはJR西日本の福知山線で、上り快速電車が脱線転覆して死者一〇七人を出す大惨事となった。十一月にはマンシヨンなどの耐震強度偽装事件が発生した。



暁野祭 GI2組のソーラン節

世界に紹介した「もったいない」という日本語をキーワードに、日本人の心についての講演であった。また、十二月三日にはアイバンク運動の草分けの運動をおこなった沼津市真楽寺の勸山弘住職による文化講演会が行われ、多くの生徒が感銘を受けた。二月二十四日の三年生の送別会では、お笑い芸人「磁石」を招いて楽しいひと時を過ごした。

校友会活動では、女子ソフトテニス部がインターハイ予選県大会個人で優勝と三位に、同全国大会で、個人ベスト32に入った。陸上競技部は、玉井悠斗君がインターハイ東海大会一〇メートルハードルで三位、同全国大会準決勝進出、岡山国体では五位になった。高校駅伝も八位と健闘した。個人で馬術の荒美咲さんも岡山国体のスピードアンドハンデネス部門で五位に入賞した。女子ソフトボール部は高校総体県大会で三位、新体操部は県民スポーツ祭女子団体で優勝、チアリーダー部は全日本マーチングバンド・バトントワリング東海大会で金賞・全国大会で銀賞を受賞、吹奏楽部も同東海大会で銀賞、東海マーチングコンテストでも銀賞に輝いた。化学部は、理科研究発表大会で優秀賞を獲得した。

平成18年度 前期

平成十八年度は十一月十五日に創立八十周年の記念式典が行われる節目の年である。医療コースを新設し無限の可能性に向けて新たな歩みが始まった。

入学式 4月8日

満開の桜を迎えられ、新入生五百五十五名が入学した。



新入生代表 答辞



入学許可証授与

歓迎会 4月11日



歓迎会の最後は吹奏楽部の演奏

芸術鑑賞会 4月14日

創立八十周年を記念して卒業生の齊藤雅昭さんのピアノ演奏を鑑賞した。



演奏会の最後は音楽部との共演

暁野祭

祝八十周年☆今年は違うぞ暁野祭!!のスローガンどおり新しい企画が盛り込まれた盛大な暁野祭になった。

文化の部 6月4日



ポスター (美術部)



マスコット



巨大壁画「ブルドッグ」

体育の部 6月6日



3年女子による「荒城の月幻想」



バザー・大食堂



模擬店 全15店舗



決勝のあとで

スピーチコンテスト
6月30日

宣誓 全力を尽くします



クラス対抗リレー



ソフトテニス部

この夏全国大会にソフトテニス部 インターハイの常連であるが個人戦に加えて二十一年ぶりに団体戦にも出場した。

この夏全国大会に ソフトテニス部



見違えるようにきれいになった

ボランティア活動 6月17日 全一年生が牛臥海岸と千本浜海岸を清掃した。これはNPO法人海風47との合同活動で今年で四年目になる。

ボランティア活動 6月17日



今年も大活躍のチーム 22名

チアリーダー部

東海大会を二位で通過し、ミスダンスドリルチーム2006で十二位に入賞した。



練習中の小川君

陸上部 インターハイの八〇〇メートルレースで三年の小川恭正君が決勝に出場し八位となった。

陸上部



立面図(正面)

中村昌生先生の設計



来賓の方々と完成の無事を祈った

八十周年を記念して造られる茶室の上棟式が七月五日(水)に行われた。

八十周年記念事業・茶室

進学部

沿革

昭和四十六年、本校に部制が施行されて発足したのが、進学部である。その後、昭和五十八年に男子四十名が入学し、創立五十七年にして初めて共学の高等学校となった。以来、加藤学園高校の中核をなす部として発展し、現在では、高校の内部組織として特進部と進学部に分かれて、それぞれの特徴を活かした教育活動がなされている。

特進部は平成十八年度より医療コースを設置し、医療クラス、αクラス、特進クラスで編成されている。一年生から三年生まで十二学級、三百四十一名が在籍している。進学部は、二十学級、七百五十四名の生徒が在籍している、この二つの部の生徒が全校の六五%を占めている。



特進部

平成十八年度より、男子七名、女子十名の生徒が入学し、全国でも目新しい『医療コース』がスタートした。現在、生命科学や医療のハイテク化に伴い、チーム医療が重要視されている。人に役立つ医療関係者を養成するために、医療系大学への進学を目標におくコースである。薬学部・歯学部・看護学部や、その他医療技術関係学部への合格を目指している。一年次の単位数は、39単位で、月から金曜日までは、毎日7時限まで授業を実施している。また火・水曜日には0時限の授業も行っている。





進学部は、校友会をはじめとする生徒の諸活動の中心を担っている。また、推薦入試制度を利用し、国立大学や有名私立大学にも多くの生徒が合格し、進学実績にも大きく貢献している。

進学部



海外修学旅行

特進部 ロンドン・パリ



進学部 ハワイ(オアフ島)

過去10年の進学実績

平成9年から平成17年まで

国公立大学

青森公立大学	(1)	東北大学	(1)
秋田大学	(1)	富山大学	(1)
茨城大学	(1)	名古屋大学	(1)
岩手大学	(2)	新潟大学	(1)
宇都宮大学	(1)	浜松医科大学	(1)
お茶の水女子大学	(1)	広島大学	(1)
京都府立大学	(1)	広島県立大学	(3)
釧路公立大学	(3)	北海道教育大学	(2)
群馬大学	(1)	前橋工科大学	(1)
群馬県立女子大学	(2)	室蘭工業大学	(1)
高知大学	(1)	山形大学	(7)
高知女子大学	(1)	山口県立大学	(1)
滋賀県立大学	(1)	山梨大学	(1)
静岡大学	(14)	山梨県立大学	(1)
静岡県立大学	(10)	国立清水海洋技術短期大学	(1)
信州大学	(1)	静岡県立大学短期大学	(5)
高崎経済大学	(1)	三重短期大学	(1)
筑波大学	(2)		
都留文科大	(3)		
東京医科歯科大学	(1)		
東京芸術大学	(1)	防衛大学校	(2)

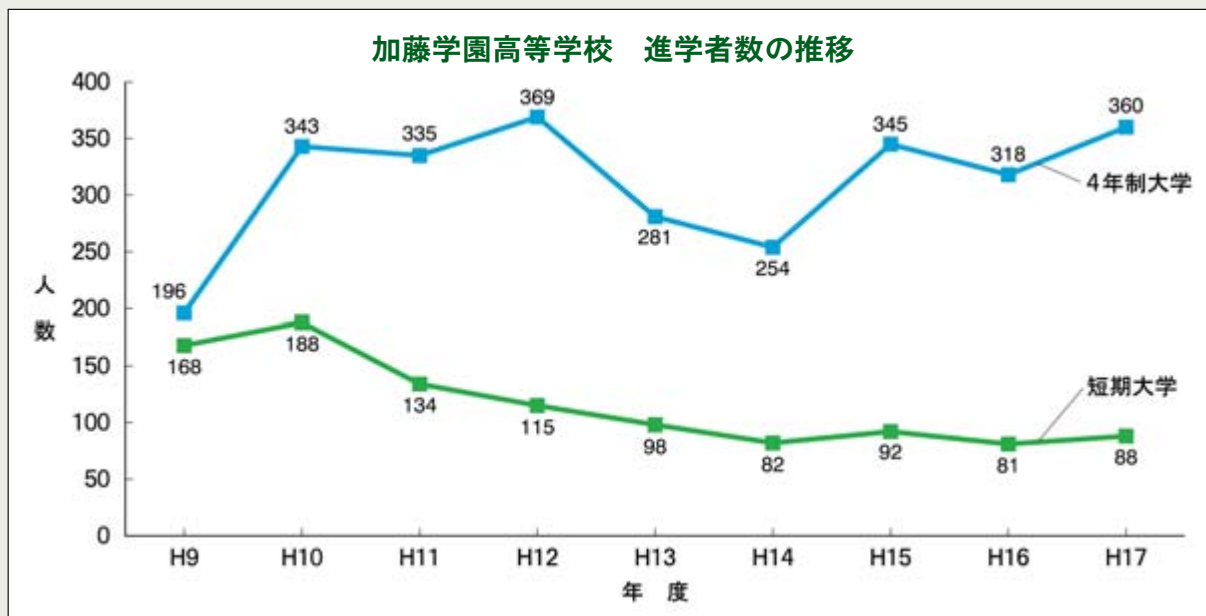


私立大学

青山学院大学	(6)	帝京平成大学	(65)
亜細亜大学	(9)	東海大学	(85)
岡山理科大学	(2)	東京家政大学	(6)
学習院大学	(1)	東京女子大学	(3)
神奈川大学	(37)	東京電機大学	(17)
神奈川歯科大学	(2)	東京農業大学	(12)
金澤医科大学	(2)	東京薬科大学	(1)
関西外国語大学	(1)	東京理科大学	(10)
関東学院大学	(60)	同志社大学	(4)
北里大学	(3)	東北福祉大学	(4)
京都外語大学	(1)	東洋大学	(19)
京都女子大学	(4)	常葉学園大学	(62)
近畿大学	(11)	名古屋外国語大学	(6)
慶應義塾大学	(1)	二松学舎大学	(11)
國學院大学	(8)	日本大学	(81)
国士舘大学	(29)	日本歯科大学	(7)
駒澤大学	(30)	日本女子大学	(2)
芝浦工業大学	(7)	日本体育大学	(8)
順天堂大学	(2)	フェリス学院大学	(14)
成蹊大学	(3)	法政大学	(13)
名城大学	(7)	明治大学	(12)
専修大学	(10)	明治学院大学	(7)
大正大学	(7)	名城大学	(5)
大東文化大学	(31)	立教大学	(2)
拓殖大学	(23)	立正大学	(44)
玉川大学	(18)	立命館大学	(12)
中央大学	(12)	龍谷大学	(6)
中京大学	(24)	早稲田大学	(5)
津田塾大学	(5)		
帝京大学	(182)		
帝京科学大学	(15)		

()は延べ人数

加藤学園高等学校 進学者数の推移



授業風景



総合学部

創立八十周年に寄せて

本学園創立以来不変であり、建学の精神でもある校訓「至誠」を教育目標に掲げ、知育・徳育・体育の調和のとれた、誠実で品位のある人づくりを目指す加藤学園高等学校の八十年間の歴史の中にあつて、平成十二年度（二〇〇〇年度）までは、女子のみが在籍しており、まさに本校の中核をなしていたのが、「普通部」（通称G）である。

その「普通部」も、平成十三年度（二〇〇一年度）に改組転換し、「総合学部」（通称は以前と変わらずG）と名称を替え、男子三十六名が入学し、共学化することにより、長い間女子のみであったこの部に、新しい息吹が吹き込まれることになった。



総合学部の教職員一同の胸には「生徒一人ひとり家に帰れば親にとって大切なかけがえのない子供。その大切な宝物を我々がお預かりしているのだ」という思いが刻み込まれている。

人間には誰でも必ず優れているところがある。教職員はそれを発見し、そして認めることが必要だ。生徒もまた、自分自身の存在をしっかりと見つめ、他に惑わされないよう自分の道を探していかなければならない。そのためにもっとも基本的なことが、「遅れずに、休まずに登校すること」である。生徒が安心して通学でき、そして充実した授業、特別活動、クラス活動に参加することができるよう、我々教職員は日々教育環境の充実を中心に配っている。

「総合学部」は他の普通課程のコースにはない、教育福祉コース・芸術コースという特色のあるコースを設置しているが、基本的には「普通部」の時代から変わらず普通課程のコースである。一年次からじっくりと将来について考え、教員からのアドバイスを得て、自分の人生を慎重に考え、そして決定していくには最適のコースと言えるだろう。

幅広い進路に対応していくためには基礎をしっかりと身につけることが第一であるとの観点から、総合学部の授業では基礎学力の向上を重点目標としている。また、個人面接による進路指導をこまめに行い、生徒達の進路に有利な情報を提供している。

そして更に、生徒達の個性や能力を生かすため部活動を奨励し、また、人間が本来持っている温かさや思いやり、やさしさなどを生かすため、ボランティア活動なども推奨している。

総合学部では「魅力ある個性を育てる」ことが教育目標の重要な要素と考えている。偏差値教育により画一的な人間を育成する時代は既に終わりを告げ、個性を持った人材を適正な部署で活用することが企業でも当たり前になってきた現在、生徒の個性を見極め、そして生徒の潜在能力を発掘し、伸ばしていくことが進路の重要課題となっている。

校訓「至誠」には思いやりの心、まごころを尽くすという意味がある。加藤学園高等学校が、今後九十周年、百周年を目指し益々発展していくためには、「まごころ」をこく自然に表に出すことができる生徒を総合学部から数多く輩出することであると信じて止まない。

総合学部教頭 佐藤哲司



総合学部の特色

総合学部（普通課程）

平成十三年（二〇〇一年）四月

普通部より改組転換

総合学部の特色（多彩なカリキュラム）

将来の進路を見据えながら、大学・短期大学・専門学校等へ幅広く進学できる部で、基礎学力を伸ばすことに重点を置いている。

二年次からは、予備知識と体験学習を主とした自由選択科目も選べるカリキュラム編成である。

二年次からのコース

《進学コース》

四年制大学・短期大学・専門学校への進学を希望する生徒が選択するコース。更に「文系」・「理系」に分かれている。

《芸術コース》

芸術系への進学を希望する生徒が選択するコース。更に「音楽」・「美術」の二系統に分かれている。「音楽」・「美術」共に、一・二・三年次の芸術専門科目は、年間三十一単位中、八単位ある。（一・二・三年を通算すると十六単位）



〈主な専門科目〉

●音楽

ピアノ・ギター演奏、器楽演奏／声楽、ソルフェージュ
I・II／音楽理論、コードネーム演習I・II、音楽史、鑑賞、作曲

●美術

素描I・II、絵画デザインI・II、美術概論、映像メディアI・II。

《教育福祉コース》

将来介護福祉士や保育士になることを希望する生徒が主に選択するコース。資格取得はできないが、体験的な授業が多くカリキュラムに組み込まれている。二・三年次の教育福祉関係の専門科目は、年間三十一単位中、六単位である。（一・二・三年を通算すると十二単位）

〈主な専門科目〉

社会福祉基礎I・II、社会福祉実習I・II、社会福祉援助技術、点字・手話。

自由選択科目

二・三年次を通算して、各コースで、自由選択科目を履修することができる。自由選択科目は、主要教科や、体験学習がある。

進学コース文系では、通算六単位。

進学コース理系では、通算三単位。

芸術コースでは、通算五単位。

教育福祉コースでは、通算二単位。

《主な自由選択科目》

言葉の探求（漢字検定）・歴史検定・英語検定・身近な法律講座・自由選択音楽・自由選択美術・自由選択書道・地理A・政治経済・オーラルA・情報処理・食を考える・工作工芸・野外活動・スポーツレクリエーション



修学旅行
ハワイ（ダイヤモンドヘッド）

総合学部 教職員一覧

平成七年（一九九五）～平成十七年（二〇〇五）

●平成七年（一九九五）

教頭 溝田利信
部長 栗栖和也
部付 大山晴康・鈴木孝志
GⅢ学年主任宮城忠臣 GⅢ1岩田俊弘・大竹裕美
GⅢ2宇津井京子 GⅢ3木村多美子 GⅢ4佐藤哲司
GⅢ5佐久間 清 GⅢ6佐藤昌子 GⅢ7古地久志
GⅢ付菅原久夫

GⅡ学年主任岡崎宗顕 GⅡ1高木和美・浜田昭宏
GⅡ2八木浩一 GⅡ3青木 浩 GⅡ4石井桂子
GⅡ5前田昌言 GⅡ6勝又熙子・高橋さゆり
GⅠ学年主任鈴木節彦 GⅠ1藤方愛一郎・松本英教
GⅠ2平野史生 GⅠ3倉橋幹雄 GⅠ4則武直美
GⅠ5前田昌言 GⅠ6飯塚典子

●平成八年（一九九六）

教頭 杉山栄一
部長 宮城忠臣
部付 大山晴康・長瀬正年
GⅢ学年主任岡崎宗顕 GⅢ1高木和美・浜田昭宏
GⅢ2八木浩一 GⅢ3青木 浩 GⅢ4石井桂子
GⅢ5前田昌言 GⅢ6勝又熙子・高橋さゆり
GⅡ学年主任鈴木節彦 GⅡ1佐藤哲司・高橋さゆり
GⅡ2藤方愛一郎 GⅡ3平野史生 GⅡ4則武直美
GⅡ5木村多美子

GⅠ学年主任岩田俊弘 GⅠ1佐藤昌子
GⅠ2大竹裕美 GⅠ3飯塚典子 GⅠ4古地久志

●平成九年（一九九七）

教頭 杉山栄一
GⅢ学年主任鈴木節彦 GⅢ1佐藤哲司・佐藤宣子

GⅢ2藤方愛一郎 GⅢ3平野史生 GⅢ4則武直美
GⅢ5木村多美子

GⅡ学年主任長瀬正年 GⅡ1高木和美・山下裕美
GⅡ2佐藤昌子 GⅡ3飯塚典子

GⅡ4海野 徑・長瀬正年
GⅠ学年主任大山晴康 GⅠ1岩田俊弘・巢立博子
GⅠ2前田昌言 GⅠ3勝又熙子・前田恵美

●平成十年（一九九八）

教頭 土屋 平
GⅢ学年主任佐藤哲司 GⅢ1佐藤哲司・山下裕美
GⅢ2佐藤昌子 GⅢ3飯塚典子 GⅢ4海野 徑
GⅡ学年主任大山晴康 GⅡ1勝又熙子・原 雅幸
GⅡ2則武直美 GⅡ3前田昌言・大山晴康
GⅠ学年主任森本善雄 GⅠ1高木和美・前田恵美
GⅠ2佐藤宣子 GⅠ3藤方愛一郎 普通部付大庭英介

●平成十一年（一九九八）

教頭 若林良夫
GⅢ学年主任大山晴康 GⅢ1勝又熙子
GⅢ2則武直美 GⅢ3前田昌言・大山晴康
GⅡ学年主任森本善雄 GⅡ1原田 貴
GⅡ2藤方愛一郎 GⅡ3勝間田芳信・森本善雄
GⅠ学年主任佐藤哲司 GⅠ1八木浩一
GⅠ2山下裕美・佐藤哲司

●平成十二年（二〇〇〇）

教頭 若林良夫
GⅢ学年主任森本善雄 GⅢ1原田 貴
GⅢ2藤方愛一郎 GⅢ3山口まさ子・森本善雄
GⅡ学年主任佐藤哲司 GⅡ1山下裕美・佐藤哲司
GⅡ2岩瀬 章・大山晴康
GⅠ学年主任小川哲龍 GⅠ1前田昌言・小川哲龍
GⅠ2勝又熙子



普通部から総合学部へ改組転換。共学となる。
(男子三十六名入学)

●平成十三年(二〇〇一)

教頭 若林良夫

G III 学年主任小川哲龍 G III 1 小川哲龍・山下裕美

G III 2 岩瀬 章

G II 学年主任菅井俊介 G II 1 菅井俊介・森本善雄

G II 2 勝又熙子

G I 学年主任佐藤哲司 G I 1 山口まさ子・佐藤哲司

G I 2 小池 求 G I 3 佐久間 清・大須賀 健

●平成十四年(二〇〇二)

教頭 若林良夫

G III 学年主任菅井俊介 G III 1 菅井俊介・森本善雄

G III 2 勝又熙子

G II 学年主任佐藤哲司 G II 1 巢立博子・佐藤哲司

G II 2 小池 求 G II 3 佐久間 清

G I 学年主任原田裕子 G I 1 原田裕子・川口時雄

G I 2 八木浩一・山下裕美 G I 3 岩瀬 章

G I 4 山口まさ子・大須賀 健



●平成十五年(二〇〇三)

教頭 佐藤哲司

G III 学年主任佐久間 清 G III 1 海野 徑

G III 2 小池 求 G III 3 佐久間 清・高橋升美

G II 学年主任原田裕子 G II 1 原田裕子・月足知浩

G II 2 大石雅人 G II 3 古地久志

G II 4 岡本謙治・山口まさ子

G I 学年主任井堀讓治 G I 1 井堀讓治・遠藤真一

G I 2 岩瀬 章 G I 3 山下裕美 G I 4 松原洋子

●平成十六年(二〇〇四)

教頭 佐藤哲司

G III 学年主任原田裕子 G III 1 原田裕子・月足知浩

G III 2 大石雅人 G III 3 古地久志 G III 4 岡本謙治

G II 学年主任井堀讓治 G II 1 井堀讓治・遠藤真一

G II 2 原 雅幸 G II 3 山下裕美 G II 4 岩瀬 章

G I 学年主任佐久間 清 G I 1 佐久間 清

G I 2 海野 徑・高橋升美 G I 3 小池 求

G I 4 松原洋子

●平成十七年(二〇〇五)

教頭 佐藤哲司

G III 学年主任井堀讓治 G III 1 遠藤真一

G III 2 原 雅幸 G III 3 山下裕美

G III 4 岩瀬 章・井堀讓治

G II 学年主任佐久間 清 G II 1 海野 徑・佐久間 清

G II 2 小池 求 G II 3 高橋升美(鈴森昌子十月〜三月)

G II 4 岡本謙治

G I 学年主任関 博樹 G I 1 関 博樹

G I 2 月足知浩 G I 3 古地久志・原田裕子



商学部

沿革概要

商学部の淵源は、本学園が創設されて間もない昭和三年である。

昭和三年四月、既存の沼津淑徳女学院に沼津淑徳商業女学校が併設された。我が商学部の歴史はこのときに始まる。

昭和五年沼津女子商業学校となり、昭和十一年、淑徳女学院が、沼津女子商業学校専攻科として併合される。昭和二十三年、新制高等学校の認可を得、沼津女子高等学校となり、商業科・普通科が置かれた。その後、校名変更を繰り返す中で、昭和四十六年、部制施行、沼津女子高等学校商業部と称される。

平成五年、時代は正にOA化が進み、情報機器の時代となり、部名をOA商学部と改称し、教育課程を大きく変更した。平成十六年、OAの呼称の陳腐化と生徒数の減少傾向を立ち直すべく、商学部と改称し現在に至っている。

十年間の歩み

平成八年度～平成十一年度

三年前に商業部からOA商学部に部名変更し、OA機器を使った教科を増単するなど、資格取得に指導の重点を置く。ワープロ（日本語・英文）、情報処理等、多数の検定合格者を出す。

平成十二年度

この十年間で特筆すべきは、この年の男女共学化であ

る。創設以来、永年にわたり女子商業の伝統を守ってきた商業科に男子七十一名が入学した。これにより、学級の雰囲気も一変、活気に溢れた学校生活を展開することとなる。

平成十三年度

過去七年間、シンガポールへの修学旅行を行ってきたが、共学を機に、オーストラリアへ変更した。しかし、九月アメリカの同時多発テロの影響で、急遽北海道に変更、北の大地の冬を初体験することになる。

平成十四年度～平成十五年度

十四年は共学化三年目、今まで進学率は四十数パーセントであったものが、六八パーセントと一気に上がり、多くの生徒が上級学校への進学に目標を置くようになった。

平成十六年度～平成十七年度

部名を商学部と変更し、イメージアップを計るが、少子化と普通科志向に勝てず、入学者は二桁となり、二学級となる。そのような中で、一年生の荒美咲さんが国民体育大会「馬術競技」に出場し、五位入賞という快挙を成し遂げたことは明るいニュースであった。

現状と今後の展望

平成十八年度、学園は創立八十周年の意義ある記念すべき年を迎えた。

加藤学園高校は、五百五十五名の新入生を迎えて、全

校生徒数は千六百八十二名になる。

学園長、学校長共に、年度始めの所感において、「八十周年は、末広がり縁起の良い年、少子化の時代に、毎年定員を大幅に上回る入学者があることは、とりもなおさず、我が加藤学園が静岡県私学の雄であることの証、今後ますます特色ある教育を展開し発展し続けたい」と述べた。

我が商学部は発展し続ける加藤学園高校の中において、少子化と普通科志向という二つの大きな波に呑み込まれようとしている。

しかし、進学志向の受験競争がもたらした、自己中心的、排他的な人間を創り出す現在の教育に、日本の将来、いや加藤学園の未来はあるのだろうか。もう一度、原点に立ち返って、人と人とのつながり、心と心の触れ合いを取り戻す、「人としての道を諭し、徳を得る」全人教育を行うことが最も大切である。特に半数近くが就職希望の商学部としては、このような視点に立って、「コミュニケーション能力」を育てていくことが最重要課題であろう。

商学部教頭 鈴木孝志



沼津情報専門学校での情報の授業

女子のみの楽しい授業風景



体育祭名物「仮装行列」



体育祭もかつては女子部（普通部・OA商学部）と共学部で別に行われていました



東急ホテルにて テーブルマナー



ニッコウキスゲが咲き乱れる中で… 霧ヶ峰高原教室

修学旅行



伝統衣装に身を包み、ちょっと緊張ぎみ



ニシキヘビ 首にかけて写真を撮ってくれます



シンガポールのシンボル マーライオン



飛行機をチャーター ゴールドコーストからシドニーへ



オーストラリアといったらコアラでしょ

商学部生徒の活躍



岡山国体馬術競技5位入賞 荒 美咲さん



個人戦1・2位独占(ワープロ部)



4年連続の全国団体V(情報処理部)

全国の高校、短大、専門学校が実力を競う「全国日本語・英文ワープロ、情報処理競技大会」において、本校の情報処理部、ワープロ部の生徒が大活躍。両部には商業科の生徒が数多く在籍していました。

近年の就職状況

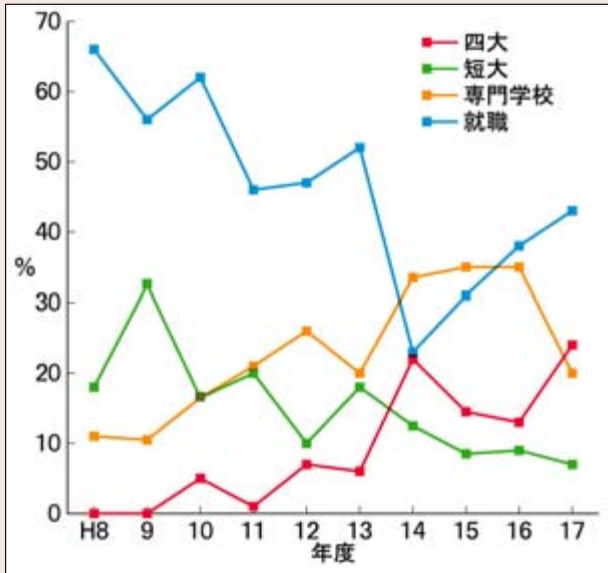


冬の北海道 寒かったけど楽しかったね

「バブル景気崩壊」・「失われた十年」などいろいろな表現をされた十年だった。政府の景気対策だけでは景気の回復は一向に進まず財政赤字だけが膨らみ、企業は借金返済に追われ倒産が続出し、失業率は5%を超えた。そのため、本校への求人も大きく変化し、バブル期以前女子高卒者に多かった補助的な事務職は、コンピュータの進歩にあいまって必要がなくなり、激減している。しかし就職希望者の減少と本校卒業者が多くの企業で活躍しているため、地元企業からの求人は確実にあり、求人倍率は他校に比べると良好である。全体としてサービスマン職に就く比率が男女共に増加傾向にあるが、高齢化社会を反映した職種も近年増加している。

一方、二〇〇七年団塊世代の大量退職期を控え製造業を中心に各企業が高卒者の採用を徐々に増やしている。しかし、ほとんどの企業で生じているはずの人手不足は新規採用ではなく他の方法（派遣・アウトソーシング等）で補い、高卒者といえども将来リーダーシップのとれる人材を採用する傾向が見られる。

進路別比率



進路別人数一覧表

	四大	短大	専門学校	就職	家事従事等	合計
平成8	0	24	15	89	6	134
9	0	40	13	69	1	123
10	4	14	14	52	0	84
11	1	17	18	40	11	87
12	4	6	15	28	6	59
13	5	13	16	40	3	77
14	28	16	43	29	12	128
15	19	11	46	41	15	132
16	16	11	42	45	6	120
17	21	6	18	38	5	88

商学部進路状況



平成十七年度 商学部教職員

- (左上より) 勝間田芳乃 白石ピーター 伊藤勝子
 河本秀昭 清水勝四郎 飯塚典子
 鈴木孝志 友野直亮 高木和実
 (左下より) 山口まさ子 川口時雄 原田 貴
 平野史生

校友会



ハンドボール



女子ソフトボール



陸上



女子バレーボール



女子ソフトテニス



男子ソフトテニス



バドミントン



女子バスケットボール



男子バスケットボール



剣道



新体操



卓球



ゴルフ



空手



男子サッカー



チアリーダー



柔道



野球



音楽



美術



放送



簿記会計



情報システム



演劇



茶道



吹奏楽



フォークソング



箏曲



化学



ペーパーバック



洋裁手芸



書道



食品研究



華道



日本舞踊



イラスト



将棋



写真



IEC



煎茶



図書



百人一首



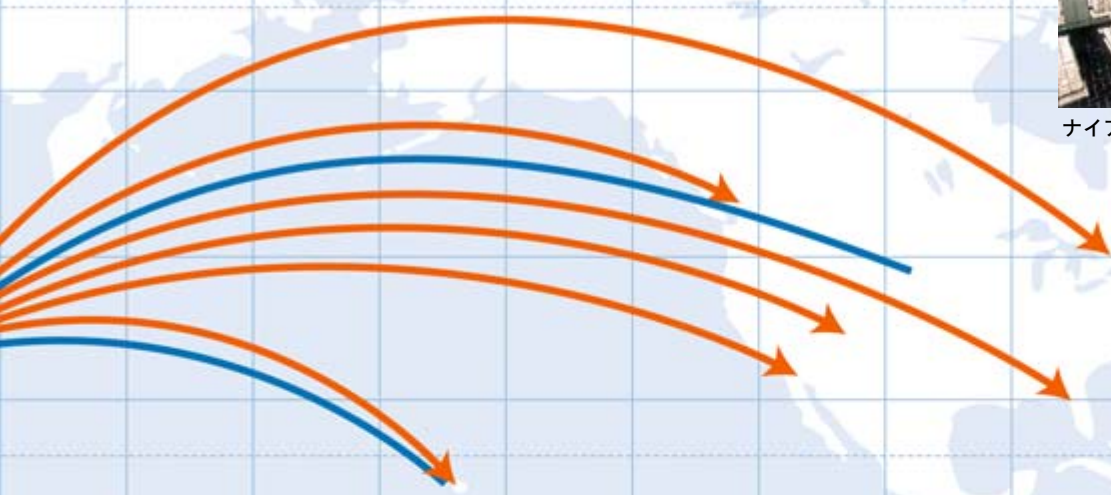
ユタ短期留学（ザイオンキャニオン）



ユタ短期留学



ナイアガラの滝（カナダ）



フロリダ研修



日米交換留学生第一弾!!
ハワイの5つの高校から19名の生徒来校



ハワイ



ディズニーランド（カリフォルニア）



ポリネシアン文化センター（ハワイ）



オペラハウスを背にして（シドニー）





ロンドンブリッジの前で



ホームズ博物館入口（ロンドン）



エッフェル塔を背に（パリ）

国際交流

本学園は、教育目標の一つに国際理解教育を掲げ、30年以上にわたり、活動を続けている。特に、ハワイのプナホウ・スクールと本校の間では、過去、本校より約110名がハワイに留学し、同時に200名を超えるハワイの生徒を受け入れてきた。

国際理解教育とは、単に語学の学習だけではなく、異文化を体験し更にそれを認識することで、自らの視野を広げ、世界の人々と平和に、そして幸せに共存していくために自ら進んで行動できる人間を育てる事ではないだろうか。もちろん語学力を高める事はその目的を達成するために有効な手段である。また、国際交流の活動を通して、同時に日本の文化をより深く理解し、一人でも多くの国際人を育てる事が国際交流の目的の一つである。

その一環として、これまでに、イギリス・フランス・アメリカ（ハワイ）・カナダ・オーストラリア・シンガポールへの修学旅行を実施してきた。生徒たちは現地の人達との交流を通して世界の大きさや異文化を体験し、そして英語を使ったコミュニケーションの面白さや難しさを肌で感じて英語を学習する事の大切さに気づいている。

また、アメリカ本土の名門高校への1年間の長期留学や、ペンシルベニア州・ユタ州・フロリダ州への短期留学を20年以上実施している。ホームステイをしながら、語学研修や野外活動を体験する貴重な経験をしている。その素晴らしい体験は、その後の彼らの人生に大きな影響を与えている。

今後、更に多くの生徒たちが世界に飛び出し、その体験を後輩たちに受け継いでくれる事を期待したい。

富士フェニックス短期大学

フェニックス 不死鳥はもう甦られないか

静岡県東部の御殿場市に高等教育機関を誘致し地域の活性化を図り、ひいては隣接する企業の研修所を含めた文化都市構想の一環として、大きな期待を背負った短大は、平成四年四月に華々しくスタートした。



校舎から眺める富士の勇姿

百花繚乱のごとく賑わいを見せるのは女子学生であるが、しからば何故富士フェニックス女子短期大学という校名にしなかったかというところ、やがて男子学生も入学させなければならぬ時期が到来するという予測があったからである。はたせるかな、その時期は思いがけないくらい早くやって来た。一九九七年（平成九年）に男子学生を入れて、『少子化』による学生数減少の一時的歯止めにはなったものの、翌年には二〇〇名を割り、さらに次の年は一四名にまで減少してしまった。

『短大の水河期』はやがて到来するといわれていたが、予想以上に早く、しかもその現象は地方から確実に始まり、本学もその波を否応なしに被ることになった。

本学園も平成十一年九月に『FPC改革委員会』を発足させ、その対応にせまられた。とりわけ短大の今後の運命を決定づけるものとして、同年九月十四日に開催された学園理事会がある。そこで『平成十二年度富士フェニックス短期大学運営方針について』が審議された。

このような状況を踏まえて、米國フロリダ州にあるリン大学との協力によって設立される、「加藤リンカレッジ」の設立の提案がなされた。

これは加藤学園が七十有余年の歴史の中で一貫して培ってきた国際理解教育と、学園として重点的に進めている英語教育の実績を踏まえて、当該学科を核として国境を越えた新しい試みを始めようとするものであった。

KLCと富士フェニックスの関係は、『富士フェニックス短期大学の学生に加藤リンカレッジは自校の学生として身分を付与する。』というもので、短大そのものの存在がなくなったということではない。



富士フェニックス短大の華麗なる校舎

この間富士フェニックス短期大学の改組・改編の検討を行う旨の書面を御殿場市長に提出し、同年九月に了解を得ている。それと同時に関係高等学校長に同趣旨の説明をし理解を求めた。当然のことながら当時の文部省にも説明のために向いている。

同年十月になると新聞各紙が一斉に「富士フェニックス短大来年度募集を中止」の記事が大見出し付きで回った。

このことはKLCに繋がる英語英米文学科国際観光コースの学生を募集しているのにも拘わらず、短大そのものが全面的に募集を停止したかの印象を受験生に与えるものであった。

この時期は学生募集をするにあたって、非常に大切な時であり、多くの学生はキャンパス見学会に参加して進学先の検討をしているはずであるが、これらの記事は受験生に富士フェニックス短大を選択対象から外させることとなり、学生募集に多大な影響を与えることになった。

二〇〇〇年四月には『二十一世紀の大学に国境はいらない。』をスローガンに、国際的カレッジとして、富士山麓キャンパス（富士フェニックス短大）とフロリダキャンパス（リン大学）の日本とアメリカの海を越えた二つのキャンパスでホテル学・観光旅行学・セラモニー学の三つの専攻をもつ加藤リンカレッジが発足することになった。

しかしながら、この時期にKLCに関する関心と理解を求めるための情報を受験生に提供するには、あまりにも時間が少なすぎた。その結果として新入生は英語英米文学科国際観光コースの八名を迎えるに留まった。

保守的な考えをもつ教育界にあって、四年制の日米合併大学を受け入れる土壌は少なく、更なる学生募集の努力が必要とされた。

二〇〇二年度からアジアに視野を拡げ、主として中国の留学生の募集を開始した。

当時中国からの留学生を受け入れる大学・短大は全国的現象となり、なかには新聞紙上を賑わす事件を引き起こす大学も現れた。幸いなことに、本学は日本語と英語で授業を行うということで、試験を厳しくしたせいか、若干のアルバイトをするものの、登校しない学生はいなかった。このなかには短大を卒業して、東京外国語大学の三年に編入した優秀な学生もいた。



登校する中国留学生達

二〇〇三年は十七名も学生を受け入れたが、短大一年終了後翌年三月、短大二年生を特別選抜で受け入れに協力していただいた大学もあって、本短大から学生の姿を見ることがなくなった。

この十年間は私にとって、今までの人生のなかで経験したことのない激しい変化であった。凝縮された思い出を繙くと、そこには我が人生の「晩年の青春」の思いがある。



短大の周辺に群生する可憐な富士桜

悩んでいる時に一緒に相談にのってくれ激励してくれた人や、酒を酌み交わしながら将来を熱く語り合った人に巡り会ったことなど、素晴らしい思い出が沢山ある。更に嬉しいのは、この短大を卒業したことを今でも誇りに思ってくれている卒業生がいることだ。

今短大は終焉の時を迎えようとしている。私もこよなく愛してきた短大と運命を共にしたいと願っている。

楚々と咲く『富士桜』に似て可憐な建物を、なんとかして再活用する方法はないものかと、関係方面と色々折衝をし、懸命に努力をしているが、思うようにはいかない。

最後に、今までの皆様方の御厚情に心から感謝の意を表すると共に御礼を申し上げる次第です。

事務局長 伴野 高久

加藤学園 暁秀高等学校・中学校

東大にもハーバードにも

国内外の難関校、東大にもハーバードにも合格実績を持つ高校は、暁秀において他にありません。昭和六十二年に発足した中高部（アルファコース）は進学実績の牽引役として、その使命を果たしてきました。今年も東大、東工大、筑波大、早稲田大、慶応大、ICUなど難関大学に多くの生徒が合格を勝ち取りました。成績優秀者の国立医学部志向は、暁秀も例外ではありません。浜松医大など国立の医学部に四名の合格者を出しました。



授業風景



バイリンガル研修会にて

暁秀の中核をなす高等部は、暁秀中学と公立中学出身者が互いに切磋琢磨し、今年も、名古屋大や東京外国語大、早稲田大や慶応大、上智大や東京理科大など難関大学に多くの合格者を出しました。

平成十年度に中学一年から順次導入したバイリンガルコースは、国際バカロレア機構から、大学入学資格プログラムの実施校として、IBプログラムを国内の一条校で初めて認可されました。

平成十五年度に初めて卒業生を送り出し、米国のハーバード大、エール大、カナダのマクギール大など、世界の難関大学に合格者を輩出しました。卒業生の大学進学実績は、バイリンガル教育の有効性と質の高さを証明しました。

平成十七年度、十八年度、十九年度の三カ年間、文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ラングエッジ・

ハイスクールの指定を受けました。バイリンガル教育を始めとする英語教育のバイオニアとし、その教育実践は国内外の教育関係者から注目を集めています。至誠・創造・奉仕の建学の精神は、開校以来普遍であり、木目細やかで親身な指導は、保護者の方々から絶大な信頼をいただけてきました。多くの兄弟姉妹が暁秀の六カ年の中に学んでいることが何よりの証拠です。



憩いの中庭



吹奏楽部のミニコンサート



バスが校内まで乗り入れ



伝統の暁秀祭応援団

多感な暁秀の生活をさらに実りあるものにと、生徒会活動や部活動も年々盛んになってきました。運動部ではサッカー部やバスケットボール部、テニス部や陸上競技部などが素晴らしい成績を残しています。平成十七年度は中学男子バスケットボール部が、中体連全国大会に出場しました。文化部では、吹奏楽部や合唱部、放送部などが校内外で活躍しています。



ネイティブの先生による英語の授業

保護者が中心になって進められる秋恒例のバザーも定着し、地域の名物行事になってきました。そこから目覚めたボランティア活動の輪は、様々な形で花開き、各地区にボランティア活動を根付かせています。



にぎわう暁秀大バザー



中体連バスケットボール東海大会優勝

加藤学園 暁秀初等学校

わが国初のオープンプラン・スクール イマージョン・プログラム

2004(平成16年)
加藤学園シンポジウム



海外から著名な言語学者を招き、「イマージョン・内容重視(Content-based)の外国語教育」・「早期英語教育」・「日本における学校英語教育の将来」の3つのテーマで進められました。



2005(平成17年)
耐震補強工事着工

加藤学園暁秀初等学校は一九七二年日本初のオープンプラン・スクールとして開校しました。
教育目標を

- 一、個性の尊重
- 二、自発・創造性の涵養
- 三、国際的な視野の育成

として、「子どもにあった教育」を追求し、子どもの自由な発想や活動を大切にし、意欲を育てる教育に取り組んでいます。

1996(平成8年)の
授業風景



具体物を操作することにより、教科の内容を理解し、意欲も育ちます。

1999(平成11年)の
修学旅行(京都・奈良)



社会科で学習した日本地理・日本歴史を自分の目や肌で感じます。

1998(平成10年)
バイリンガル教育
国際シンポジウム



日本の英語教育のモデルとしての役割を強調(小池生夫慶応大教授)

1997(平成9年)の
清里合宿



たくさんの自然体験学習に取り組みます。

創造性豊かな、たくましい人間づくり



2002(平成14年)
創立30周年記念式典



2003(平成15年)の
運動会(応援合戦)



6年生のリーダーが全校児童を動かします。
リーダーが育つ良い機会です。



日中友好30周年のこの年、中国政府の要人である中国政治協商会議常任委員の趙維臣教授も式典に参列。

一九九二年にはこれも日本初となる英語イマージョン・プログラムを導入しました。算数や理科などの一般教科を英語で学ぶことにより、教科の内容も、また英語力もつけるというプログラムです。

開校以来、三十三年間オープンプランを追及し、各界で活躍する人材を輩出しているレギュラークラスと、十三年を終えハーバード大学・エール大学など海外大学への合格実績をだしているイマージョンクラス、この二つの特色のあるクラスが車の両輪のように機能し、それぞれの良さを十分発揮しています。



2001(平成13年)
「日本文化」の時間創設

本校の国際理解教育の目的は「日本人としてのアイデンティティーを確立した国際人の育成」です。茶道・箏曲・長唄囃子・華道・書道・陶芸・武道の7講座から、自分の好きなものに1年間取り組み、日本文化を体験します。



2000(平成12年)フォーリー
駐日アメリカ大使来校



この年は、America Japan Dayも開催。
大学英語教育学会特別賞もいただきました。

加藤学園幼稚園

保育目標

『創造性豊かな人間への基礎づくり』

強 く…健康な体力づくり・意志づくり
明 るく…豊かな情緒生活・明るい社会生活への参加と
感 性の芽生えを育む
賢 く…創造性豊かな能力開発・知性を伸ばす

加藤学園幼稚園では「教育の理想は、優れた幼児教育なしには達成できない。」という理念のもと、ユニークな教育内容と近代的施設によって幼児の健全な発達をはかるために昭和四十二年に設立されて以来、個性の尊重の教育・ユニークで個性をもった教育・日本の未来を指向する教育を行ってまいりました。



1996年（平成8年）体操のお兄さんによる体操教室を開始。子どもたちの体力・調整力の向上をはかる

1997年（平成9年）オーストラリア・カルディニア幼稚園と姉妹園締結、親子ホームステイ始まる。また、この年職業をもつ女性のための子育て支援と母親の社会参加の支援を目的に延長保育（パンダ）を開始する。



1999年（平成11年）子育てに勤しむ母親たちに、安心して子供を生み育てることができるよう支援するとともに、同年齢の子どもたち同士の触れ合う機会を設け子育て支援をしていくことを目的に、子育て支援センター“ちゅちゅ”を開設。





2001年（平成13年）創立三十五周年記念式典挙行。
35th Birthday Concertを沼津市民文化センターにて行う。それ以来、『こぼとコンサート』を沼津市民文化センターで行っている。



2004年（平成16年）加藤学園高等学校総合学部
生徒の実習開始。

2005年（平成17年）こぼとの会主催『親子地震防災教室』実施。
レスキュー体験



2005年（平成17年）こぼとの会主催
『親子地震防災教室』実施。煙体験

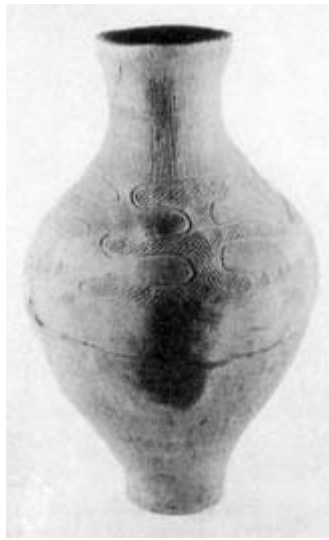
考古学研究所

I 資料室時代

(昭和二十四年～三十四年)

本学園考古学研究所は昭和四十四年に創設されたが、その源は昭和二十四年四月に仮校舎の旧玄関脇の小部屋（戦後の旧事務室）を改造して出来た郷土室である。間もなく廊下を挟んだ向かい側の部屋も付属の考古資料室となり、やがて社会科学教室とも呼ぶようになった。

この時代は沼津・熱海・原・裾野・富士宮などで研究のための小発掘が行われ、松崎や東伊豆でも踏査による遺跡の新発見が相次いだ。この時代で特記される発掘調査は沼津市軒通遺跡の調査で、同遺跡より出土した弥生土器は、現在沼津市の指定文化財に指定されている。



軒通出土弥生土器

II 考古館時代

(昭和三十五年～四十三年)

旧B棟（当時の旧第二校舎、その後、第一校舎と改称）が完成した三十年代には、同校舎二階の中央階段上が考古館（後に進路指導室）となり、更にその後半には同校



休場遺跡発見の石囲い炉

舎一階東端の一室が考古資料展示室となって、次第に拡大・整備されていった。

この時代は、遺跡の発掘調査が狩野川放水路や住宅建設・新幹線などの工事に伴う行政発掘（記録保存のための事前調査）が次第に多くなり、調査の規模も期間も長期化していった。調査によって出土した遺物も年々増加して、その整理に費やす時間も長期化していった。この時代で特記される発掘調査は、後に国指定史跡となった沼津市休場遺跡の二次にわたる調査で、旧石器時代末期の細石器文化の多量の石器と素材、その時代の炉の跡が発見された。一次の出土遺物は現在沼津市の指定文化財に指定されている。

III 沼津考古学研究所時代

(昭和四十四年～五十三年)

旧B棟（当時の旧第二校舎）二階の西端の一教室に沼津考古学研究所が新設された。この頃は、東名高速道路建設に伴う発掘調査をはじめ、さらに行政発掘の依頼が多くなり、現地の発掘調査と調査後の整理作業・報告書作成など多忙となる。この時代で特記される発掘調査は、富士宮市の千居遺跡である。この遺跡は、今から約四千年五百年前の縄文時代中期の環状集落と、富士山に対する祭祀場及び共同墓地が発見され、昭和五十年に国指定史跡となった。



昭和45・46両年度にわたり研究所により発掘調査され、国の史跡となった千居遺跡

IV 加藤学園考古学研究所時代（二期）

（昭和五十三年～六十二年）

昭和五十三年に本学園創立五十周年の記念事業の一つとして完成した記念館に移ることになり、陳列室・整理室・研究室などを備えた研究所として新たな段階へと成長した。同時に名称も沼津考古学研究所から加藤学園考古学研究所と改称された。そして、開館を記念して特別展「静岡県の縄文土器展」を開いて、県内各地の主要な縄文土器を網羅して展示した。次いで「静岡県の弥生土器展」「静岡県の土師器と須恵器展」など特別展を開催した。

県や市町村の教育委員会から依頼される発掘調査も増え、その報告書の刊行にも実績を挙げてきた。

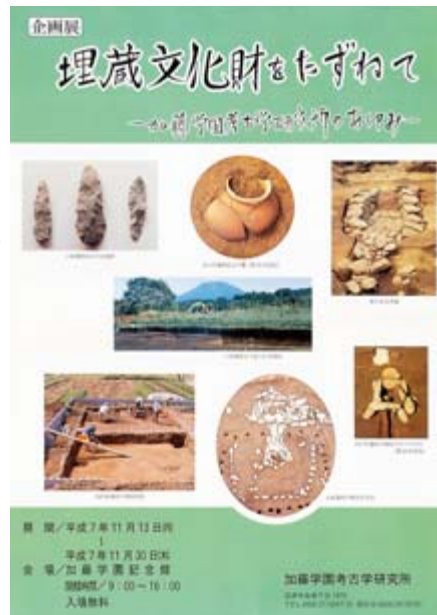
V 加藤学園考古学研究所時代（二期）

（昭和六十三年～平成七年）

学園が創立六十周年から創立七十周年までの時代で、この時代も市町村からの発掘調査の依頼が相次ぎ、発掘調査とその整理の対応に追われ、臨時の発掘作業員や整理作業員を補充してそれに対処した。しかし、発掘調査による資料は膨大な量となり、また発掘調査を優先したため、報告書の刊行は次第にとどこおっていった。このような状況の中で特別展の企画は無理となり、数回の企画展にとどまらざるをえなかった。創立七十周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として「埋蔵文化財をたずねて―加藤学園考古学研究所のあゆみ―」と題して、昭和二十四年以来、長年にわたって手掛けてきた埋蔵文化財の調査成果を調査時代順に展示し、県東部を中心とした活動を紹介した。



企画展「埋蔵文化財をたずねて」のポスター



VI 加藤学園考古学研究所時代（三期）

（平成七年～平成十七年）

バブル経済も崩壊して、次第に発掘調査の依頼も年々減少してきた。それに従って人員整理も行われ、研究所の規模も縮小していった。研究所の活動は、主に未刊行の報告書の作成が中心となった。現在はその作業もほぼ終わった。

真砂会



入会式

ふぢ先生墓参
毎年5月10日のご命日に



「真砂会」の由来

母校開校の地、沼津市真砂町の地名に因み又、浜の真砂の如く、数限りなく同窓生が増え続けること、それは母校の発展を願うことに外ならないのです。そんな思いを込めて同窓会は「真砂会」と命名されました。

「発足・名簿」について

昭和三十年一月、学園創立三十周年を機に正式に発足し、真砂会会員名簿作成に着手しました。最初は戦災で全ての資料を焼失した中、在職の先生方や卒業生、役員の方々のご苦勞、ご協力で手作りの名簿第一号が出来ました。以来平成十七年三月まで五年毎に改訂発行され、平成十八年三月よりは「個人情報保護法」の施行により、名簿の発行は致しておりません。現在三万四千余名の会員数ですが、本部にて厳重なセキュリティシステムで管理しています。

展望

大正十五年、創立者加藤ふぢ先生によって設立された沼津淑徳女学院は生徒数二十五名から始まりました。以来、幾多の困苦を乗り越え、時代の移り変わりと共に目覚ましく充実・発展した学園となり、女学校であった学園も昭和五十八年四月に四十名の男子が入学し、これより男女共学校となりました。昭和六十一年二月の同窓会入会式で初めての真砂会男子会員を迎え、彼等も二年後の平成二十年には総会のお手伝いをお願いする四十歳に

制服の歴史



～昭和52年度



昭和53年度～

暁野祭
会員の作品展示



暁野祭
手作り品、野菜、
お花の販売

総会 会場風景



総会
在校生による逍遙歌ダンス



長澤とみ子様
(昭和63年度～
平成3年度)



和田閑代様
(昭和57年度～
62年度)



酒井喜代子様
(昭和53年度～
56年度)



熊倉千枝子様
(昭和47年度～
52年度)



故宮本きく様
(昭和45年度～
46年度)



夏目千代子様
(昭和30年度～
44年度)



小池ふみ子様
(平成18年度～
現在)



中澤洋子様
(平成16年度～
17年度)



故高田晴美様
(平成12年度～
15年度)



佐藤美雪様
(平成8年度～
11年度)



生田 亘様
(平成4年度～
7年度)

真砂会歴代会長

なる訳です。頼もしい男子の方々のお力を交え、
一層の発展に協力をして参りたいと思います。 母校の

開校当初より教育理念の校訓「至誠」を象徴する像として、正門を入るとすぐの庭に第十四回卒業生の酒井喜代子氏より寄贈建立されたものです。



「至誠」まごころを尽くす
制作者 堤 直美氏(日展審査員)
平成11年9月8日建立

至誠の灯火



平成3年度～

加藤学園高等学校創立八十周年記念事業実行委員氏名

委員長 副委員長

望月幸夫 学校後援会
長谷川貞夫 法人本部
加藤富仁子 法人本部
小池ふみ子 真砂会
加藤千晴 P T A
小林 力 P T A
宮城忠臣 加藤学園高等学校
鈴木孝志 加藤学園高等学校
永井清人 加藤学園高等学校
伴野高久 富士フミックス短期大学
加藤千恵美 暁秀中・高等学校
佐藤誠一 暁秀初等学校
内山淳夫 加藤学園幼稚園
酒井喜代子 真砂会
和田閑代 真砂会
長澤とみ子 真砂会
生田 亘 真砂会
佐藤美雪 真砂会
中澤洋子 真砂会
久保田博明 P T A
佐藤秀樹 P T A
清水多美子 P T A
鈴木 修 P T A
中村敬子 P T A
川口廣子 P T A
柏酒直美 P T A

委員

菅川いず美 P T A
岩井 学 学校後援会
山本美恵子 学校後援会
杉本一郎 学校後援会
坂井 功 学校後援会
三木満男 P T A
森 治夫 P T A
原 敏之 P T A
長瀬正年 暁秀中・高等学校
杉山明德 法人本部
清水勝四郎 加藤学園高等学校
鈴木節彦 加藤学園高等学校
佐藤哲司 加藤学園高等学校
渡辺正光 加藤学園高等学校
一杉早敏 加藤学園高等学校
齐藤郁子 加藤学園高等学校
鈴木教昭 加藤学園高等学校
安藤 潤 加藤学園高等学校
川口時雄 加藤学園高等学校
高木和実 加藤学園高等学校
原田裕子 加藤学園高等学校
伊藤哲也 加藤学園高等学校
河本秀明 加藤学園高等学校
大塚佳子 加藤学園高等学校
浅井久枝 加藤学園高等学校

委員

特別相談役

望月幸夫 学校後援会
長谷川貞夫 法人本部
加藤富仁子 法人本部
小池ふみ子 真砂会
加藤千晴 P T A
小林 力 P T A
宮城忠臣 加藤学園高等学校
鈴木孝志 加藤学園高等学校
永井清人 加藤学園高等学校
伴野高久 富士フミックス短期大学
加藤千恵美 暁秀中・高等学校
佐藤誠一 暁秀初等学校
内山淳夫 加藤学園幼稚園
酒井喜代子 真砂会
和田閑代 真砂会
長澤とみ子 真砂会
生田 亘 真砂会
佐藤美雪 真砂会
中澤洋子 真砂会
久保田博明 P T A
佐藤秀樹 P T A
清水多美子 P T A
鈴木 修 P T A
中村敬子 P T A
川口廣子 P T A
柏酒直美 P T A

加藤学園高等学校創立八十周年記念事業準備委員氏名

委員長

副委員長

委員

加藤瑠美子 加藤学園高等学校 委員
 加藤富仁子 加藤学園高等学校
 宮城忠臣 加藤学園高等学校
 鈴木孝志 加藤学園高等学校
 高砂敬義 加藤学園高等学校
 鈴木節彦 加藤学園高等学校
 佐藤哲司 加藤学園高等学校
 渡辺正光 加藤学園高等学校
 一杉早敏 加藤学園高等学校
 安藤 潤 加藤学園高等学校
 川口時雄 加藤学園高等学校
 大塚佳子 加藤学園高等学校
 高木和実 加藤学園高等学校
 伊藤哲也 加藤学園高等学校
 鈴木教昭 加藤学園高等学校
 河本秀昭 加藤学園高等学校
 長谷川貞夫 法人本部
 杉山明德 法人本部
 永井清人 事務局

浅井久枝 事務局

望月幸夫 学校後援会

岩井 学 学校後援会

山本美恵子 学校後援会

杉本一郎 学校後援会

坂井 功 学校後援会

加藤千晴 P T A 連協会長

川口廣子 P T A P 部会長

鈴木 修 P T A G 部会長

中村敬子 P T A C 部会長

萩原正司 体育文化振興会

中澤洋子 真砂会

酒井喜代子 真砂会

和田閑代 真砂会

長澤とみ子 真砂会

生田 亘 真砂会

佐藤美雪 真砂会

高田晴美 真砂会

加藤学園高等学校

創立八十周年記念誌編集委員氏名

委員長

副委員長

委員

鈴木節彦 加藤学園高等学校
 大塚佳子 加藤学園高等学校
 鈴木教昭 加藤学園高等学校
 高木和実 加藤学園高等学校
 杉山博恵 加藤学園高等学校
 海野 徑 加藤学園高等学校
 佐久間 清 加藤学園高等学校
 平野史生 加藤学園高等学校
 齐藤郁子 加藤学園高等学校
 伊藤哲也 加藤学園高等学校
 伴野高久 富士フミックス短期大学
 加藤千恵美 暁秀中・高等学校
 長瀬正年 暁秀中・高等学校
 佐藤誠一 暁秀初等学校
 内山淳夫 加藤学園幼稚園
 秋本真澄 考古学研究所
 中澤洋子 真砂会
 小池ふみ子 真砂会

編集後記

創立八十周年の式典は加藤学園全体で、また記念誌については写真をベースに且つコンパクトなものにとの趣旨から、記念誌編纂の基本方針を次の三点に定めた。

- 一、本校を中心にオール加藤学園で
- 一、創立七十周年以降の十年（平成七年から平成十八年）を中心に

一、写真（カラー）をベースとし、全体をコンパクトなものに

その結果、従来の記念誌とは趣を異にするものとなったが、全体の流れを通して八十年の歴史をひもといて頂きたい。

加藤学園のあゆみについては次代に継ぐことを念頭に置いたため活字による構成が全体に比べ多くなっている。冊子のタイトルについては多くの候補の中から、本校の不変の教育理念である校訓「至誠」が選ばれた。揮毫は現校長の加藤瑠美子先生によるもので、現在、全教室に掲げられている。

大正十五年、創立者、故加藤ふぢ先生によって荒地に植えられた一本の苗木は、今や大地にしっかりと根を下ろし、その幹には八十年の年輪が刻まれている。今後、九十年、更に百年と、力強い歩みが本校の歴史に深く刻まれることを委員一同願って止まない。

お忙しいなか、原稿をお寄せ頂きました皆様、協力して編集に携わって下さった先生方、写真を提供して下さいましたアルバムセンター様、そして記念誌編纂にご尽力下さったみどり美術印刷(株)様には心より感謝申し上げます。

加藤学園高等学校

創立八十周年記念誌「至誠」

平成十八年十一月一日印刷

平成十八年十一月十五日発行

編集者 加藤学園高等学校創立八十周年

記念誌編集委員会

発行者 加藤学園高等学校創立八十周年

記念事業実行委員会

印刷者 沼津市沼北町二一六一一九

みどり美術印刷株式会社

発行所 沼津市大岡自由ヶ丘一九七九

学校法人加藤学園 法人総局

